



西南学院大学博物館年報 第2号

ANNUAL REPORT OF SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM No.2

2009





西南学院大学博物館年報 第2号

ANNUAL REPORT OF SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM No.2

2009

 西南学院大学

巻 頭 言

西南学院大学博物館は、2006（平成18）年5月の開館以来、各種の博物館活動に積極的に取り組んでまいりました。そのことは毎年の年報で報告すべきですが、開館当初から多忙を極めたことより事業報告ができないままでおりました。年報は本来、単年度の発刊が望ましく、2009年度に西南学院大学博物館が開館してから2008年度までの3年間の事業報告として『西南学院大学博物館年報』第1号を創刊いたしました。幸い2009年度の職員・組織体制も固まったことを受けて、活動記録として本書を作成することとなりました。2009年度の活動を振り返ると、博物館の基幹業務である展示事業のほか、教育活動など多方面にわたって活動いたしました。

展示事業としまして、春季特別展に「信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎—」、秋季特別展に「ジュダイカ・コレクションⅡ 祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—」を開催いたしました。日本キリスト教史の転機となった島原・天草の乱に焦点をあて、島原市・南島原市からのご協力を得まして実に多くの来館者に恵まれました。また2年前に行なったジュダイカ・コレクションⅠの続編として秋季特別展で継続開催し、本学名誉教授である関谷定夫先生のご協力により、多くのユダヤ教の資料を展示することができました。本展覧会にはイスラエル大使が来館されるなど、多くの方々に本学博物館を知っていただく機会となりました。

教育活動としましては、2009年から博物館実習の受け入れを始めました。本学の3名の学生を受け入れ、2週間にわたり博物館実習をおこないました。2週間にわたる博物館実習での経験を踏まえて、海の中道マリンワールドでは実習生による展覧会を実施しました。また、本学博物館2階講堂では各種講演会を実施し、なかでも大学院学内GP「行動力をもつ人社系研究者の育成」でおこなわれた講演会を共催し、博学連携の一指針を示すことができました。

また、特別展にあわせて図録を刊行することはもちろん、博物館の旬な情報を提供するために博物館ニュースを発刊いたしました。大学・博物館関係者はもとより、幅広い層の来館者に博物館を身近に感じてもらえるような取り組みをおこないました。今後は、年に4回の博物館ニュースの発刊を目指して情報を発信していきたいと考えております。

なお、本学博物館は2010年3月1日付けで博物館相当施設の指定を受けました。年々、着々と成果を挙げております本学博物館を、本書を通じて紹介させていただくとともに、今後とも忌憚ないご意見を賜れば幸いに存じます。

2010年8月16日

西南学院大学博物館

館長 高倉 洋彰

目 次

巻頭言	3	
西南学院大学博物館沿革	5	
西南学院大学博物館構造	6	
2009年度事業報告		
1. 展示活動		
春季特別展「信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎」実施報告.....	8	
秋季特別展「祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—」実施報告	14	
企画展「世界人物図巻の世界」実施報告.....	19	
2. 教育活動		
博物館実習	21	
2009年度主催講演会	27	
職員研究・社会活動	28	
博物館刊行物.....	30	
講堂利用一覧.....	32	
3. 来館者動向		
来館者統計	33	
特別展期間別来館者統計	35	
来館団体一覧.....	42	
4. 広報活動		44
寄贈図書一覧.....	45	
博物館組織		
職員構成	47	

西南学院大学博物館沿革

- 1916(大正5)年 福岡市大名町に「私立西南学院」を設立（教職員9人、生徒104名の男子中等学校）
- 1918(大正7)年 早良郡西新町（現福岡市早良区西新）に移転
- 1920(大正9)年 西南学院旧本館工事着工
- 1921(大正10)年 3月、西南学院旧本館・講堂工事竣工
- 1922(大正11)年 12月2日、西南学院バプテスト教会設立
- 1928(昭和3)年 日曜日問題のため、高等学部学生によるストライキが起こる
- 1933(昭和8)年 5月31日、創立者C.K.ドージャー逝去
- 1951(昭和26)年 2月29日、財団法人西南学院から学校法人西南学院に転換
- 2004(平成16)年 3月11日、旧本館・講堂を「福岡市指定有形文化財」、「保存建物」に指定
- 2004(平成16)年 8月9日、旧本館・講堂の補強改修工事着工
- 2005(平成17)年 7月21日、旧本館・講堂の補強改修工事竣工
- 2006(平成18)年 4月、建物の名称を「西南学院大学博物館」に変更
- 2006(平成18)年 5月13日、博物館開館式典 15日、一般公開
- 2010(平成22)年 3月1日、博物館相当施設に指定〔指定番号第16号〕

〔設置者の名称及び住所〕

学校法人西南学院

福岡県福岡市早良区西新六丁目2番92号

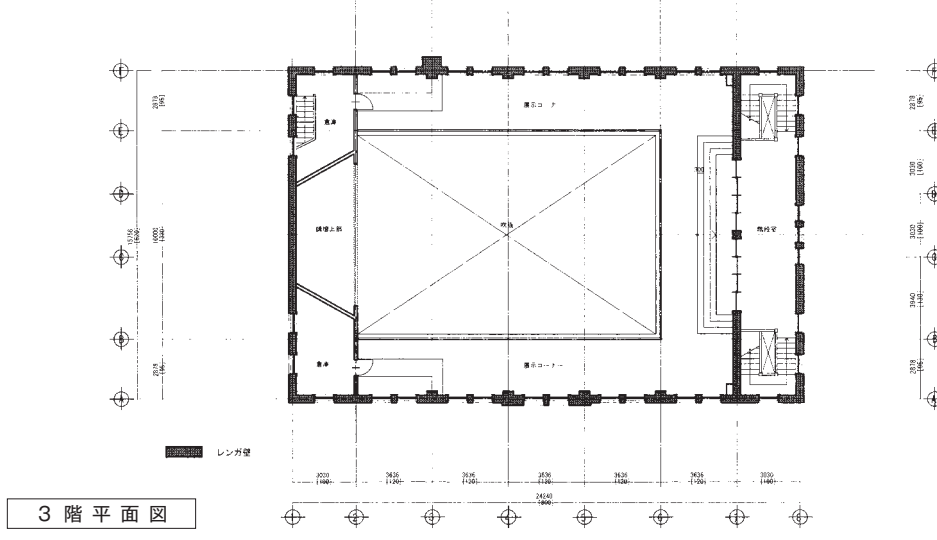
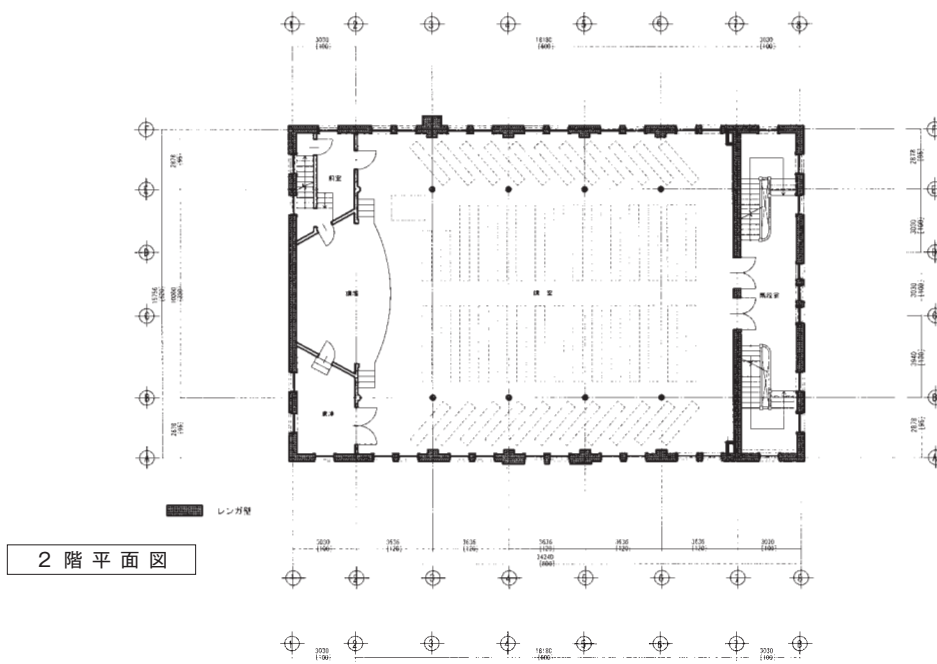
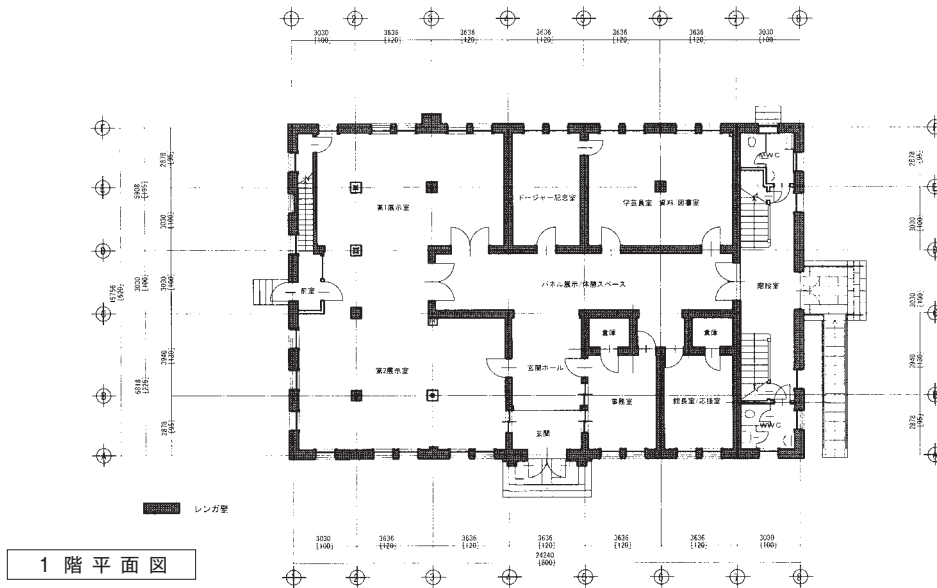
〔名称〕 西南学院大学博物館（ドージャー記念館）

〔所在地〕 福岡県福岡市早良区西新三丁目13番1号



指定をうけた西南学院大学博物館
（ドージャー記念館）

西南学院大学博物館構造





南面



東面

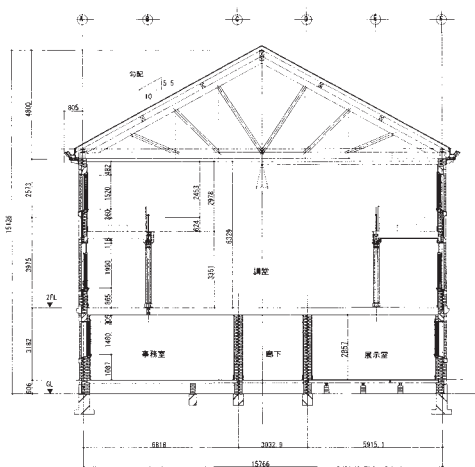
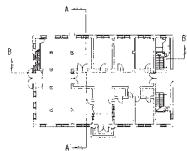
立面图



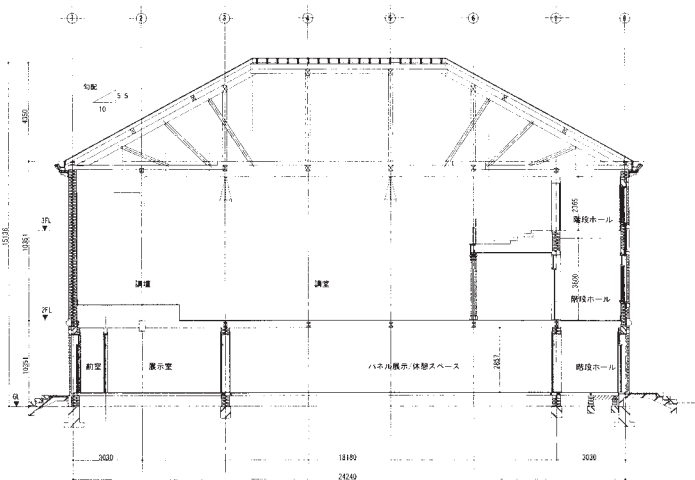
北面



西面



A~A



B~B

断面图



2009年度事業報告

1. 展示活動

春季特別展「信仰とその証 —島原・天草の乱と天草四郎—」実施報告



開催趣旨

1637(寛永14)年に勃発した「島原・天草の乱」。この拠点となった原城には、島原一帯に居住していたキリシタンたちが、立て籠もり、幕府勢力に抵抗した。翌年2月末に鎮圧されるまでの間、天草四郎時貞は若年でありながら、首領として一揆勢を取りまとめ、これを指揮した。近年、島原・天草の乱は、発掘成果などによりその性格が再検討され始めている。本展覧会では、こうした近況にしたがって、島原におけるキリスト教の信仰形態とその代表的な歴史事象である「島原・天草の乱」の実像に迫っていく。また、その後、展開されたキリスト教政策についても取り上げ、島原半島におけるキリスト教信仰の姿や、島原・天草の乱後の幕府禁教政策に至るまでの過程を紹介していく。本展覧会を通じて、当時の信仰のありのままの姿を感じていただければ幸いです。

会期：2009(平成21)年6月20日(土)～2009(平成21)年7月31日(金)

会場：西南学院大学博物館

主催：西南学院大学博物館

九州のキリスト教シリーズI

「信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎」開催にあたって

1549（天文18）年にフランシスコ・ザビエルが来日するにともない、日本にキリスト教がもたらされると、新たな文化創出があった。キリスト教は、これまでの日本固有の文化、習俗に融合しながら定着していき、多くの日本人に受け入れられていった。これが、日本人の芸術的昇華を生み出し、文化的にも精神的にも飛躍を遂げることになる。また、当時の権力者が、積極的にキリスト教を受容したことが、キリスト教繁栄の足がかりとなり、地域によってはキリシタン大名が出現するまでに至った。

しかし、江戸時代になるとキリスト教の地位も一転することになる。その大きな転機となったのが、島原・天草の乱であり、これを機に日本はキリスト教の信仰を禁じる政策を展開した。多くのキリシタンは棄教したが、なかには潜伏形態によって信仰を固持するものもあった。寺請制度、絵踏みなど多くの宗教政策が実施されるなか、キリシタンたちは不遇な時代を過ごすことになったのである。こうした江戸幕府の宗教政策は、倒幕後の明治政府にも一部引き継がれていった。

1873（明治6）年にキリスト教禁制の高札が撤廃されたことで、ようやくキリスト教の信仰が公認される。ザビエル来航から、約325年の長い年月は、キリスト教にとって栄華と衰退という相対する時期であり、そして日本人にとっても、歴史、文化、思想面においても転機となった時代だったのである。

日本におけるキリスト教史には、光と影の部分があり、そうしたなか各地域に根ざした歴史や文化などが今日にも脈々と受け継がれている。本シリーズは、九州各地に伝わるキリスト教文化に焦点をあて、当時の日本人がいかにキリスト教を受容し、信仰していたのか。その実像に迫るとともに、今日の日本人に与える意義を考えていく機会になればと考えている。

第5回 特別展関連公開講演会

期日 2009年6月7日（土）

時間 第1部 14：00～14：30

第2部 14：30～16：00

会場 大学博物館 2階講堂

講師 第1部 安高啓明氏（本学博物館学芸員）

第2部 大橋幸泰氏（早稲田大学教育・総合科学学術院准教授）

演題 第1部 「島原・天草の乱前後の江戸幕府禁教政策」

第2部 「近世人の島原天草一揆認識」

展示構成

I. 島原におけるキリスト教信仰

豊臣秀吉により伴天連追放令が出されるなど、禁教政策が実施されていたが、実質的に、キリスト教は九州各地に根付いていた。秀吉の禁教政策は、徳川家康にも引き継がれており、全国的にキリスト教禁制の法度が発布されている。しかし、島原藩は、キリシタン大名である有馬晴信以来キリスト教に帰依する者が多く、一大拠点となっていた。有馬氏のと領主となった松倉重政の支配下においても、多くの領民がキリスト教を信仰していたのであった。

展示室風景

会場入口

南島原市には多くのキリシタン墓地があり、なかには国指定重要文化財のものがある。ここで展示したキリシタン墓地もそのひとつで、南島原市にあるもののレプリカである。会場入口に設置することで、島原半島とキリスト教の関係の深さを認識してもらえるものとした。また、本展覧会場入口にワークシートを置き、観覧の参考にしてもらった。



会場入ってすぐに今回のシリーズの解説パネルを置いた。今後も継続する企画を提示することで、引き続き興味をもってもらえるようにした。1章では島原半島のキリシタンが所持していたキリシタン鏝やロザリオを展示した。会場入ってすぐ目に入る柱には、仮設壁を立て、正面にポスターをひきのばしたものに開催概要を記したもの。両脇には、本展覧会の時期の歴史的背景を説明した。



II. 島原・天草の乱

1616（元和2）年に松倉重政が島原に入部すると、日野江城、原城を廃し、あらたに島原城（森岳城）が築かれ始めた。重政は城普請にともない、民衆に多くの課税を強いるとともに、キリシタン弾圧をおこなっていた。こうした状況のなかで、1637（寛永14）年10月25日、有馬村代官林兵左衛門が村人に殺害されたことを機に、天草地方を巻き込んだ一揆へと発展した。彼らは益田四郎時貞（天草四郎）を首領にすえ、宗教的結合のもとに原城に立て籠もり幕府軍に抵抗した。オランダも幕府軍に加勢するなかで、1638（寛永15）年2月末の総攻撃を受けて乱は終結を迎えた。

展示室風景

島原・天草の乱の象徴的存在である天草四郎時貞の肖像画を正面に配し、その前には信仰の拠り所とされたマリア観音像などを展示した。当時の乱の様子を示す掛軸とともに、島原・天草の乱の概要を紹介する大きな説明板を置いた。また、乱がキリシタンによる一揆であったことがわかる発掘遺物とともに、乱の詳細がわかる年表を置いた。また、目立たない資料が多かったことから色味のある演示台を用いた。



III. 乱後の禁教政策

島原・天草の乱が終結すると、島原城に高力忠房が着任した。譜代大名である高力忠房を移封したのは、徳川家光の期待と信用のあらわれであろう。こうしたなか、高力氏は荒廃した島原領内を建て直し、幕府の政策を断行していく。宗門改や寺請制度が実施されるなど、身分を問わず幅広く行われた。こうしたキリスト教禁制は、明治政府の政策にも引き継がれ、太政官布告などによって徹底された。

展示室風景

島原・天草の乱の様子を後年に記した資料を展示することで、当時の様子の過酷さが後世に伝えられたことを説明した。また、この乱を契機に禁教政策が強化されていき、これは幕末、明治初期まで続けられていたことを紹介した。古文書には適宜、書き下し文を付した。



IV. 発掘遺物が語る原城の姿

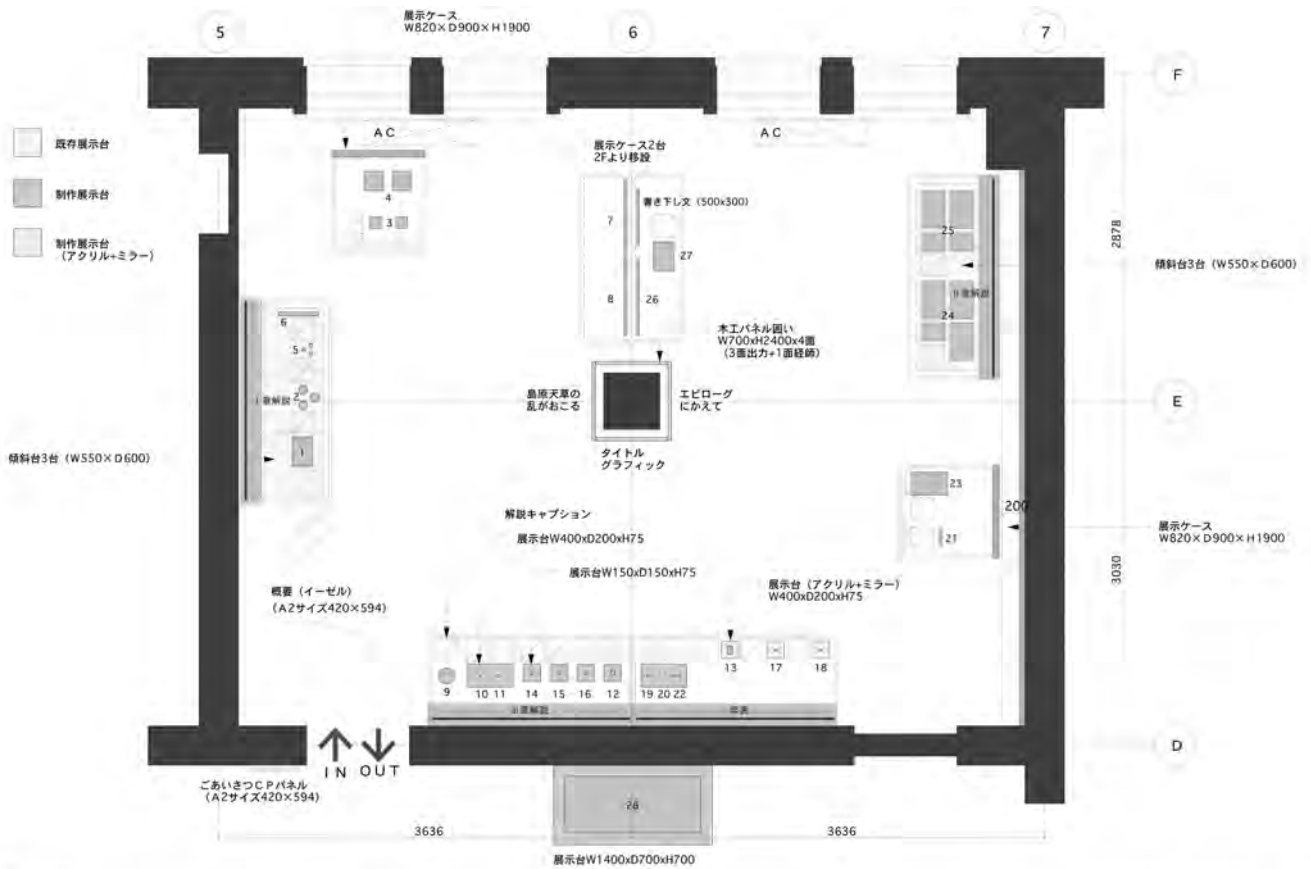
原城跡では、多量の陶磁器が出土している。国内産では唐津系陶器が主であり、肥前磁器の製品が多い。貿易陶磁器では、青花の器種のもの、中国系窯のものが多い。また、東南アジア産の製品も含まれるなど、原城を拠点とした当時の文物の行き交いがわかる。

展示室風景

島原・天草の乱の拠点となった原城から発掘された遺物を通じて知ることができる当時の海外交流の様子を取り上げた。また、発掘当時のパネルを展示することで、資料発掘のリアルな情景を紹介するとともに、原城跡に実際に訪れたくなるような工夫をした。



展示室平面レイアウト



※ 図中番号は出品目録の資料番号に相当する。

出品目録

資料番号	資料名	数量	時代	所蔵
1	東照大権現様宗門御定書	1	慶長18(1613)年5月写	島原城(島原市)
2	キリシタン鏝	3		島原城(島原市)
3	象牙製マリア像	2		島原城(島原市)
4	マリア観音像	2		島原城(島原市)
5	メダイ	3		島原城(島原市)
6	ロザリオ	1		島原城(島原市)
7	天草四郎肖像	1	昭和4(1929)年	島原城(島原市)
8	天草一揆軍陣営図	1		島原城(島原市)
9	鉛弾(大)	1	江戸前期	南島原市
10	鉄砲弾(小)	5	江戸前期	南島原市
11	鉄砲弾(着弾痕)	5	江戸前期	南島原市
12	十字架(青銅製)	1	江戸前期	南島原市
13	十字架(青銅製函)	1	江戸前期	南島原市
14	十字架(鉛)	1	江戸前期	南島原市
15	十字架(鉛 逆さ十字)	1	江戸前期	南島原市
16	十字架(鉛 平)	1	江戸前期	南島原市
17	メダイ(ザビエル)	1	江戸前期	南島原市
18	メダイ(キリスト像)	1	江戸前期	南島原市
19	メダイ(函)	1	江戸前期	南島原市
20	ロザリオの珠	3	江戸前期	南島原市
21	花十字紋瓦	1	江戸前期	南島原市
22	指輪	2	江戸前期	南島原市
23	鯨瓦	1	江戸前期	南島原市
24	原城記事	12	1646(弘化3)年	当館
25	宗門御改影踏絵帳	11	江戸時代	当館
26	太政官布告禁令	1	慶応4年5月	島原城(島原市)
27	阿蘭陀国条約並税則	1	安政5年写	当館
28	吉利支丹墓碑(レプリカ)	1		南島原市
29	貿易磁器 安平壺	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
30	貿易陶器 華南三彩貼花文五耳壺	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
31	貿易磁器 青磁(急須)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
32	貿易磁器 青磁(皿)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
33	貿易磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
34	貿易磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
35	貿易磁器 白磁(水滴)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
36	貿易磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
37	貿易磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
38	貿易磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
39	貿易磁器 白磁(茶碗)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
40	貿易磁器 白磁(茶碗)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
41	貿易磁器 白磁(皿)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
42	貿易磁器 白磁(皿)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
43	国産陶器(壺)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
44	国産陶器(皿)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
45	国産陶器(抹茶椀)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
46	国産陶器(皿)	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
47	国産陶器 黒唐津素麺手茶碗	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
48	国産磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市
49	国産磁器 白磁	1	16世紀末～17世紀初	南島原市

秋季特別展「祈りの継承 ―ユダヤの生活と儀礼―」実施報告

ジュダイカ・コレクションⅡ
祈りの継承
ユダヤの生活と儀礼

2009 (victory) 2010 (victory)
11月10日(火) ▶ 1月16日(土)
10:00~18:00 (入館は17:30まで) 入館料無料
日曜休館
ただし12月25日(金)・12月28日(月)は休館(28日までは休館いたしません)
西南学院大学博物館 (ドージャー記念館)

第6回 特別展関連公開講演会
期日 2009年11月21日(土)
時間 15:30~17:00
会場 大学博物館(ドージャー記念館)2階講堂
講師 大津忠彦(筑紫女学園大学教授)
演題 「古代オリエント史におけるユダヤ」

西南学院大学博物館
博物館事務室 〒814-8511 福岡市早良区西新3-13-1 TEL.092-823-4785
URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/ 西南学院大学

ジュダイカ・コレクションⅡ
祈りの継承
ユダヤの生活と儀礼

2009 (victory) 2010 (victory)
11月10日(火) ▶ 1月16日(土)

入館料無料

展示内容

キリスト教の浸透であるユダヤ教。しかし、我々日本人にとって、ユダヤ教はマスメディアによる報道や世界史の教科書などでたまに見聞きはするが、決して馴染み深いものとはいえない。ましてや、ユダヤ人の生活や習慣に触れる機会というのは、極めて少ないのが現状である。ユダヤ教の教札に用いられた美術工芸品(ジュダイカ(JUDAICA))は、ユダヤ人の芸術性や美学的志向を窺うことができる資料である。また、ユダヤ教という宗教のみならず、歴史学的、政治学的な要素を含む非常に奥深いものである。ジュダイカ・コレクションから中東文化圏を理解することは、国際化社会である今日においてとても重要なことである。

本展覧会は、西南学院大学名誉教授関谷定夫氏のご協力を得てユダヤ人の生活の営みにスポットをあてて紹介するものである。儀礼、儀礼を支えた背景には、ユダヤの教義を守った日常生活があった。そこで、美術考古学からユダヤ人の日常生活にアプローチするとともに、そこに繋がっていた習慣について(ジュダイカ)を通して、今日まで連続と続くユダヤ教の美事に誇りたいと考えている。

展示内容

I トーラー〜ユダヤの「教義」〜
1. 金の巻物
2. 金の巻物、トーラーの巻物
3. 金の巻物

II ユダヤの生活〜聖書考古学の世界〜
1. 金の巻物
2. 金の巻物、ユダヤの生活
3. 金の巻物、ユダヤの生活

III 儀礼〜ユダヤの安息日と結婚〜
1. 金の巻物
2. 金の巻物、ユダヤの生活
3. 金の巻物、ユダヤの生活

IV ユダヤ教会堂の姿
1. 金の巻物
2. 金の巻物、ユダヤの生活
3. 金の巻物、ユダヤの生活

西南学院大学博物館
博物館事務室 〒814-8511 福岡市早良区西新3-13-1 TEL.092-823-4785
URL www.seinan-gu.ac.jp/museum/ SEINAN GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM 3-13-1 Nishijin, Sawara-ku, Fukuoka 814-8511 Japan

会期：2009(平成21)年11月10日(火)～2010(平成22)年1月16日(土)

会場：西南学院大学博物館

主催：西南学院大学博物館

協力：関谷定夫西南学院大学名誉教授

第6回 特別展関連公開講演会

期日 2009年11月21日(土)

時間 15:30～17:00

会場 大学博物館(ドージャー記念館)2階講堂

講師 大津忠彦(筑紫女学園大学教授)

演題 「古代オリエント史におけるユダヤ」

ジュダイカコレクション2 「祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—」

展覧会概要

キリスト教の源流であるユダヤ教。しかし、我々日本人にとって、ユダヤ教はマスメディアによる報道や世界史の教科書などでたまに見聞きはするが、決して馴染みが深いものとはいえない。ましてや、ユダヤ人の生活や習慣に触れる機会というのは、極めて少ないのが現状である。

ユダヤ教の祭礼に用いられた美術工芸品「ジュダイカ (J U D A I C A)」は、ユダヤ人の価値観や美術的志向を感じることができる資料である。また、ユダヤ教という宗教のみならず、歴史学的、民俗学的な要素を含む非常に価値の高いものである。ジュダイカ・コレクションから中東文化圏を理解することは、国際化社会である今日においてとても重要なことである。

2007年秋に本学博物館において、ジュダイカコレクション1「祈りの継承—ユダヤの信仰と祭—」を開催した。祭礼や儀式をテーマとして、ユダヤ教の信仰を紹介し、多くの来館者から好評を得た。今回もジュダイカコレクションの所蔵者である西南学院大学名誉教授の関谷定夫氏のご協力を得て、ユダヤ人の生活をテーマとしたジュダイカコレクション2「祈りの継承—ユダヤの生活と習慣—」を開催する。

本展覧会は、ユダヤ人の生活の営みにスポットをあてて紹介するものである。祭礼・儀礼を支えた背景には、ユダヤの教えを守った日常生活があった。そこで、関谷名誉教授がご専門とする聖書考古学からユダヤ人の日常生活にアプローチするとともに、そこに根付いていた習慣について「ジュダイカ」を通じて、今日まで連綿と続くユダヤ教の実像に迫りたいと考えている。

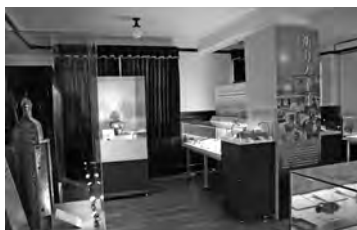
展示構成

I. トーラー～ユダヤの『教え』～

聖書全体を指し、『教え』という意味をもつトーラー (TORAH)。トーラーは、ユダヤ人の生活の基本原則とされ、礼拝で用いられるトーラーは専門の書記によって手写しされた羊皮紙の巻物でなければならないとされた。そのため、ユダヤ教ではトーラー巻物に特別な扱いをしており、高価なアクセサリーや装飾品が考案された。ユダヤ人の根底にあるトーラーを通じてみることのできる生活意識を紹介する。

展示室風景

全体照明を暗くして、会場を神秘的な空間となるようにした。トーラーケースなど大型の資料を最初に展示し、来館者にインパクトを与えるようにした。それに対して、冠を同じ章で展示し、荘厳な雰囲気になるようにした。



II. ユダヤの生活～聖書考古学の世界～

イスラエルを含む中近東の古代都市遺跡を発掘すると、陶製のオイル・ランプが出土する。「ランプはランプと呼ばれる。人間の魂はランプと呼ばれる」と言われるように、ランプは古代の人々にとって、生命と幸福のシンボルとされ、また、最もポピュラーな日用品でもあった。ユダヤで鑄造された貨幣（コイン）や水差、小壺とあわせてみることで、日常生活を営むユダヤ人の姿が浮き彫りとなる。

展示室風景

オイル・ランプは時系列的な変遷がわかるように陳列し、解説を加えた。発掘遺物で難しい内容だったため、子どもの遊び“スピボン”のコーナーを設けメリハリをつけた。コインの展示には鏡付の演

示台をつかうなど裏面がみえるようにした。



III. 習慣～ユダヤの安息日と結婚～

人間にとって生活と隣り合わせのものが儀礼である。安息日は、ユダヤ人のなかで習慣として根付いており、金曜日の夕方のカバラット・シャバットの祈りの時に葡萄酒を飲むにあたり、キドゥシュ（聖別）という祝福の祈りが唱えられ、安息日最後の別れの儀式ハヴダラーの時はスパイス（香料）をくゆらす儀式があった。また、結婚にあたってケトウバー（契約書）を式当日に、新郎から新婦に手渡す習慣があるなど、儀礼からユダヤ人が守り続けた習慣を垣間見ることができる。

展示室風景

大型のハヌキヤや、パロケットを展示し、シナゴグに近い雰囲気となるようにした。また、露出展示しすることで、荘厳な雰囲気をひきたてるようにした。ユダヤの指輪や、結婚誓約書を展示し、今日と共通

する儀式に興味をもたせるように工夫した。

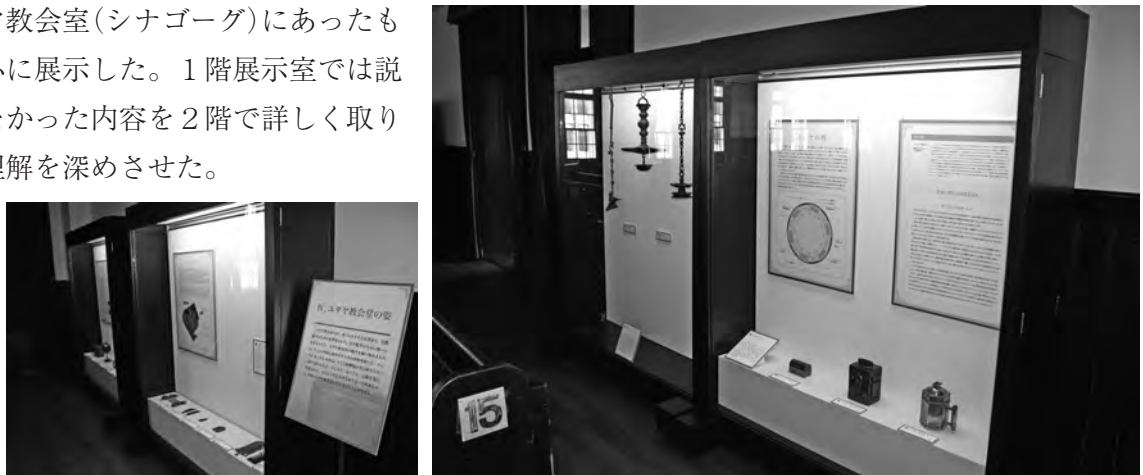


Ⅳ. ユダヤ教会堂の姿

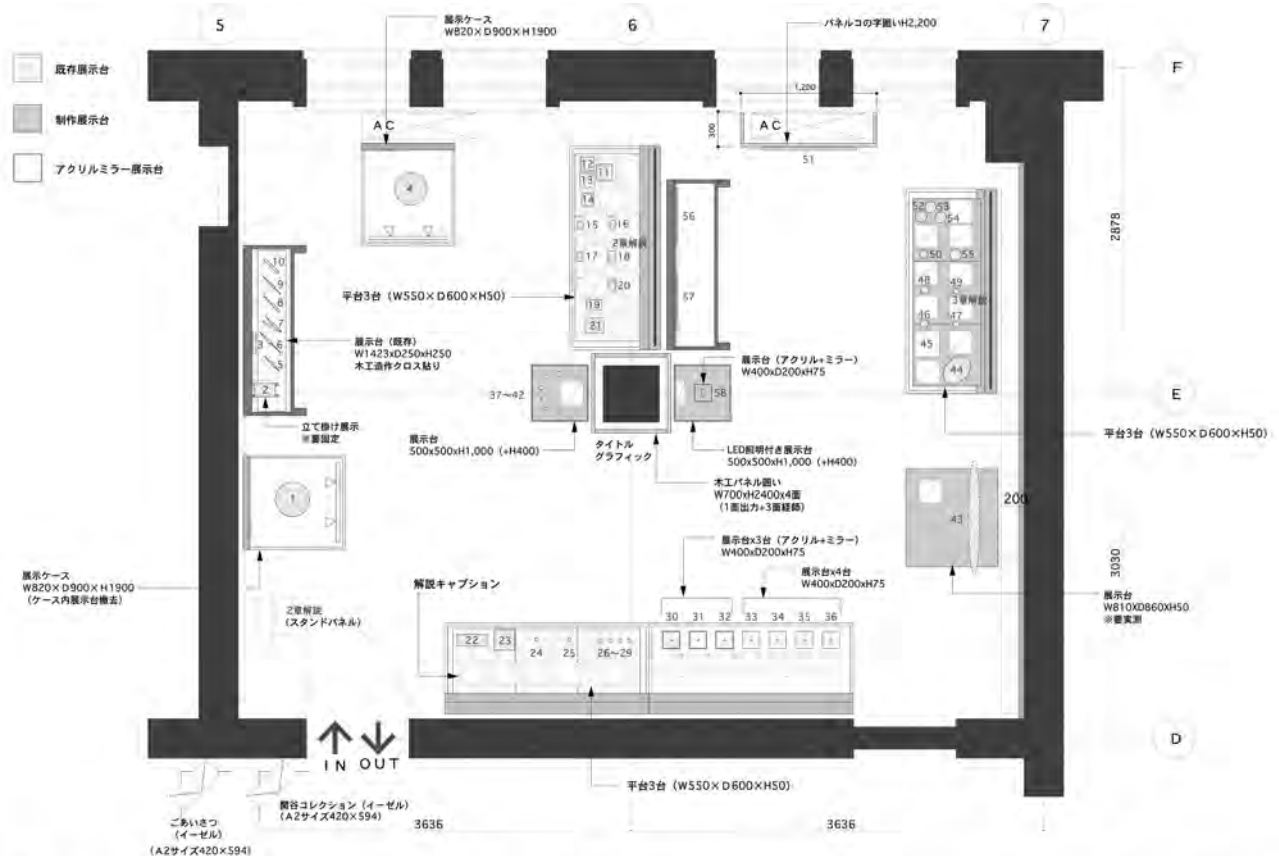
ユダヤ教会堂には、多くのユダヤ人が集まり、宗教儀式のための礼拝堂として、勉学のために用いられるなどした。ユダヤ教会堂の様子を窺い知れるものとして、入口付近に置かれて人々が喜捨を投じた「ツェダカー・ボックス」がある。また、柑橘類の実で秋のスコット祭で用いられた「エトログ・ボックス」は教会堂に持参された。このような教会堂を取り巻く宗教道具から、当時のユダヤ教会堂の姿を見出すことができる。

展示室風景

ユダヤ教会室(シナゴグ)にあったものを中心に展示した。1階展示室では説明できなかった内容を2階で詳しく取り上げ、理解を深めさせた。



展示室平面レイアウト



※ 図中番号は出品目録の資料番号に相当する。

ジュダイカ・コレクションⅡ「祈りの継承-ユダヤの生活と儀礼-」出品目録

番号	資料名	数量	時代	所蔵
1	トラーとトラーケース	1		関谷定夫
2	トラー	1	19世紀	関谷定夫
3	胸当て	1		関谷定夫
4	冠	1		関谷定夫
5	ヤド	1		関谷定夫
6	ヤド	1		関谷定夫
7	ヤド	1		関谷定夫
8	ヤド	1		関谷定夫
9	ヤド	1		関谷定夫
10	ヤド	1		関谷定夫
11	平皿型ランプ	1	中期カナン時代(B. C. 3100~B. C. 1850)	関谷定夫
12	深底平皿型ランプ	1	中期青銅器時代(B. C. 1850~B. C. 1550)	関谷定夫
13	浅底平皿型ランプ	1	鉄器時代、イスラエル時代(B. C. 1200~B. C. 930)	関谷定夫
14	台付平皿型ランプ	1	B. C. 1000~B. C. 600	関谷定夫
15	ノズル付小型ランプ	1	ヘレニズム時代(B. C. 330~B. C. 63)	関谷定夫
16	小型ランプ	1	ハスモンズ時代(B. C. 2世紀~B. C. 1世紀)	関谷定夫
17	ランプ	1	ヘロデ時代(B. C. 37~A. D. 135)	関谷定夫
18	装飾付ランプ	1	ヘロデ時代(A. D. 70~A. D. 150)	関谷定夫
19	装飾付ユダヤ・ランプ	1	2世紀~4世紀	関谷定夫
20	メノラー装飾付ユダヤ・ランプ	1	ピサンチン時代(4世紀~5世紀)	関谷定夫
21	魚尾型把手付平型ユダヤ・ランプ	1	タルムード時代(3世紀~5世紀)	関谷定夫
22	香シャベル	1	ローマ時代(1世紀)	関谷定夫
23	ルリスタン製戦斧	1	B. C. 2500~2000	関谷定夫
24	テラコッタ製把手付水差し	1	B. C. 1850~1550	関谷定夫
25	水差し	1	B. C. 1550~1200	関谷定夫
25	小壺	1	鉄器時代(B. C. 1000)	関谷定夫
26	小壺	1	ピサンチン時代(4世紀~5世紀)	関谷定夫
27	椅子型婦人像	1	イスラエル鉄器時代(1 2世紀)	関谷定夫
28	雄牛像	1	後期カナン時代(B. C. 13世紀)	関谷定夫
29	豹像	1	ヘレニズム・ナバテア時代(1世紀)	関谷定夫
30	アレクサンドロス・ヤンナイオス貨幣	1		関谷定夫
31	アンティゴノス・マタティアス貨幣	1		関谷定夫
32	ヘロデ大王貨幣	1		関谷定夫
33	ヘロデ・アグリッパⅡ世貨幣	1		関谷定夫
34	第一次ユダヤ・ローマ戦争第三年シュケル銀貨	1		関谷定夫
35	第一次ユダヤ・ローマ戦争第二年青銅貨	1		関谷定夫
36	第二次ユダヤ・ローマ戦争の青銅貨	1		関谷定夫
37	スピボン(ハヌカ・コマ)	1		関谷定夫
38	スピボン(ハヌカ・コマ)	1		関谷定夫
39	スピボン(ハヌカ・コマ)	1		関谷定夫
40	スピボン(ハヌカ・コマ)(複製)	1		関谷定夫
41	スピボン(ハヌカ・コマ)	1		関谷定夫
42	シャバット・ランプ	1	19世紀	関谷定夫
43	シャバット・クロス	1		関谷定夫
44	キドウシュ・カップ	1		関谷定夫
45	キドウシュ・カップ	1		関谷定夫
46	キドウシュ・カップ	1		関谷定夫
47	キドウシュ・カップ	1		関谷定夫
48	キドウシュ・カップ	1		関谷定夫
49	カボレット付バロケット(トラー・カーテン)	1	19世紀	関谷定夫
50	スパイス・タワー	1		関谷定夫
51	スパイス・タワー	1		関谷定夫
52	スパイス・タワー	1		関谷定夫
53	ハブダラ・セット	1		関谷定夫
54	ケトゥバー	1		関谷定夫
55	ケトゥバー	1		関谷定夫
56	結婚指輪	1		関谷定夫
57	メズーザー	1		関谷定夫
58	メズーザー	1		関谷定夫
59	メズーザー	1		関谷定夫
60	メズーザー	1		関谷定夫
61	メズーザー	1		関谷定夫
62	メズーザー	1		関谷定夫
63	メズーザー	1		関谷定夫
64	エトログ・ボックス	1	19世紀	関谷定夫
65	エトログ・ボックス	1		関谷定夫
66	エトログ・ボックス	1		関谷定夫
67	エトログ・ボックス	1		関谷定夫
68	ネル・タミード	1		関谷定夫
69	ネル・タミード	1	19世紀	関谷定夫
70	ネル・タミード	1		関谷定夫
71	ツェダカー・ボックス	1		関谷定夫
72	ツェダカー・ボックス	1		関谷定夫
73	ツェダカー・ボックス	1		関谷定夫

企画展「世界人物図巻の世界」実施報告

「世界人物図巻」の世界

「世界人物図巻」(国立大学法人九州大学附属図書館所蔵)は、城義隣によって描かれた江戸後期の作品である。長崎の町絵師として知られる城義隣は、長崎派の画者として数多くの作品を残している。その作例には、望遠鏡をのぞくオランダ商館長とこれに随伴する商館員、黒ん坊を描いたものがあり、外国人を素材とすることが多い絵師だったことがうかがえる。

鎖国体制下にあった江戸時代の日本人は、外国人に対する興味が高かった。オランダ商館長や朝鮮通信使をはじめとする江戸参府には、多くの人々が関心を寄せている。出島と唐人屋敷があった長崎の町人のなかには、オランダ人や中国人の服装を真似たりするものもいる程だった。多くの日本人は、積極的に海外の文化を受容していったのである。

世界各地の人々を素材とした人物図の類は、「万国人物図」などをはじめ、今日にも各機関に残されている。「世界人物図巻」もそのひとつで、本資料には2艘のオランダ船、1艘の中国船をはじめ40ヶ国の人物が収められている。これらはユーラシア大陸、南北アメリカ大陸、アフリカ大陸の各国の人々の姿を伝聞、空想により描写している。なかには非常にユーモラスに描かれたものもある。また、各人に対して説明も付されており、国名の由来や位置、気候なども記されている。

鎖国体制という限られた情報量のなかで、当時の日本人の目に外国人がどのように映っていたのか。江戸時代の日本人の知識と感性を含めて、「世界人物図巻」をご覧いただきたい。

【「世界人物図巻」に収録されている人物(配列順)】

(1)阿蘭陀船2艘・唐船1艘(2)大明人(3)大清人(4)朝鮮人(5)琉球人(6)東京人(トキ) (7)韃靼人(ダツタ) (8)呱哇人(シャ) (9)馬加撒爾人(マカサ) (10)暹羅人(シム) (11)莫臥爾人(モワ) (12)阿蘭陀人(オランダ) (13)百儿西亜人(ハルシヤ) (14)度爾格人(トルコ) (15)莫斯科米亞人(ムスコビヤ) (16)以西把尼人(イスパニヤ) (17)波爾杜尾爾人(ボルトガル) (18)意太里亞人(イタリヤ) (19)齋爾媽尼亞人(セルマニヤ) (20)諳尼利亞人(仔リス) (21)伯刺西爾人(ブラジル) (22)魯西亞人(ロシア) (23)為匿亞人(グイヤ) (24)羅烏人(ラウ) (25)亞爾默尼亞人(アルメニヤ) (26)榮桑人(ハツタ) (27)垂費利加人(アフリカ) (28)比里太尼亞人(ヒリタニヤ) (29)エ答里亞人(コソタリヤ) (30)大泥亞人(タニヤ) (31)翁加里亞人(フンガリヤ) (32)撒儿木人(サルト) (33)垂勒戀人(アセリヤ) (34)加拿林人(カナリヤ) (35)答加沙谷人(タカサゴ) (36)凡良哈人(フンカハ) (37)呆宋人(ソウ) (38)刺答蘭人(タタラン) (39)蘇門答刺人(スマタラ) (40)小人 (41)長人

会期：2010年2月4日(木)～2010年5月22日(土)

会場：西南学院大学博物館1階通路および2階講堂

「世界人物図巻の世界」

企画の目的

本学博物館では春と秋の年に2回の特別展を実施している。春季特別展、秋季特別展とも40日程の開催期間（合計80日程）であるため、これ以外の期間では展示内容や教育活動が不十分なものとなっていた。そこで、特別展を開催していない時期に、企画展を実施することによって、展示の充実を図るとともに、来館者サービスの向上を目的としている。大学博物館として地域に根ざした活動をするのはもとより、特別展とは違った角度でテーマを設定し、多くの来館者に関心をもってもらえる企画を今後も実施していく。

展示風景

1階特別展室前の廊下と2階講堂入口に「世界人物図巻」(国立大学法人九州大学附属図書館所蔵)に所収される12ヶ国の人物を取り上げ、拡大パネルを展示した。これにあわせて、それぞれの解説パネルを設置するとともに、その国の位置がわかるように世界地図のパネルを置き、補足説明をおこなった。



2. 教育活動

博物館実習

実習概要

2009年度から本学学生3名を博物館実習生として受け入れた。8月18日(火)から9月19日(土)までの間、前半と後半にわけ、前半には基礎実習、後半には実践実習をおこなった。

前半の基礎実習では博物館職員の仕事、学芸員の仕事を説明したうえで、実際に所蔵資料にふれさせることを目的として、古文書や美術品などを展示させた。また、各人が興味のあることを企画展として実施するための企画書を作成させた(本書23~25頁に掲載)。本学博物館の特別展示室を展示場とみだてて、実際に作品・資料をどのように陳列していくのか、そのレイアウト図を作成させた。

後半の実践実習では、所蔵資料の調書作成、目録作成をおこなった。また、フィールドワークとして、西南学院大学の付近の調査を事前におこなったうえで、実地研修をおこなった。これまで馴染み深かった西新地区の歴史や文化を再発見することができた。

前半の基礎実習、後半の実践実習をふまえたうえで、実習生3人による企画展「行こうよ!せいはいく」展を実施するために、企画立案からパネル作成、展示構成などを考えさせた。これらの成果は、マリンワールド海の中道で11月14日(土)から12月1日(火)まで展示公開した。

2009年度受入学生

江平 のぞみ (文学部外国語学科4年)

下川 裕未 (国際文化学部国際文化学科4年)

松吉 有希 (国際文化学部国際文化学科4年)

実習風景



博物館実習カリキュラム

博物館実習(基礎実習):前期

	8/18(火)	8/19(水)	8/20(木)	8/21(金)	8/22(土)
午前	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備
	10:30 オリエンテーション	10:20 資料目録と調書作成	10:20 資料取扱いと展示	10:20 企画展中間報告	10:20 博物館活動に関する展示
	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	11:05 館内施設見学	11:05 目録作成実践①	11:05 展示実践①	11:05 企画展作り実習③	11:05 展示準備①(解説作成)
	11:35	11:35	11:35	11:35	11:35
昼 食					
午後	12:30 収蔵室見学	12:30 目録作成実践②	12:30 展示実践②	12:30 企画展作り実習④	12:30 展示準備②(解説作成)
	13:40 収蔵室作業①	13:40 調書作成実習	14:30 教育PGと企画展の起案	13:30 企画展作り実習⑤	14:30 展示準備③(パネル作成)
	13:55	13:50	14:40	13:40	14:40
	14:25 収蔵室作業②	16:00 資料梱包実習①	15:10 企画展作り実習①	15:10 発表、討議	15:40 展示準備④(パネル作成)
	14:30	16:10	15:15	15:20	15:50
	17:30	17:00	17:00	16:50	16:50
	17:35 実習日誌作成	17:10 資料梱包実習②	17:10 企画展作り実習②	17:00 フィールドワークについて	17:00 フィールドワーク調査
	18:00 戸締り・点検	18:00 実習日誌作成	18:00 実習日誌作成	18:00 実習日誌作成	18:00 実習日誌作成
18:20	18:20	18:20	18:20	18:20	
担当教員・学芸員	高倉洋彰 安高啓明	安高啓明	安高啓明	安高啓明	安高啓明
実習生	江平・下川・松吉	江平・下川・松吉	江平・下川・松吉	江平・下川・松吉	江平・下川・松吉

博物館実習(実践実習):後期

	8/24(月)	8/25(火)	8/28(金)	8/29(土)	9/4(金)
午前	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備
	10:30	10:30	10:30	10:30	10:30
	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成
	11:05 成	11:05 成	11:05 成	11:05 成	11:05 成
	11:35	11:35	11:35	11:35	11:35
昼 食					
午後	12:30 資料台帳作成①	12:30 資料台帳作成①	12:30 資料台帳作成①	12:30 館外実習(フィールドワーク)①	12:30 資料台帳作成①
	13:40 資料台帳作成②	13:40 資料台帳作成②	13:40 資料台帳作成②	13:40 館外実習(フィールドワーク)②	13:40 資料台帳作成②
	13:55	13:55	13:55	13:55	13:55
	14:25 資料台帳作成③	14:25 資料台帳作成③	14:25 資料台帳作成③	14:25 館外実習(フィールドワーク)③	14:25 資料台帳作成③
	14:30	14:30	14:30	14:30	14:30
	17:30 資料台帳作成④	17:30 資料台帳作成④	17:30 資料台帳作成④	17:30 館外実習(フィールドワーク)④	17:30 資料台帳作成④
	17:35	17:35	17:35	17:35	17:35
	18:00 実習日誌	18:00 実習日誌	18:00 実習日誌	18:00 実習日誌	18:00 実習日誌
18:20	18:20	18:20	18:20	18:20	
担当学芸員	安高啓明	安高啓明	安高啓明	安高啓明	安高啓明
実習生	松吉①	松吉②	江平①・下川①・松吉③	松吉④・江平②・下川②	下川③

	9/5(土)	9/11(金)	9/19(土)
午前	10:15 準備	10:15 準備	10:15 準備
	10:30	10:30	10:30
	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成	11:00 解説作成&パネル作成
	11:05 成	11:05 成	11:05 成
	11:35	11:35	11:35
昼 食			
午後	12:30 資料台帳作成①	12:30 資料台帳作成①	12:30 資料台帳作成①
	13:40 資料台帳作成②	13:40 資料台帳作成②	13:40 資料台帳作成②
	13:55	13:55	13:55
	14:25 資料台帳作成③	14:25 資料台帳作成③	14:25 資料台帳作成③
	14:30	14:30	14:30
	17:30 資料台帳作成④	17:30 資料台帳作成④	16:50 資料台帳作成③
	17:35	17:35	17:00 オリエンテーション
	18:00 実習日誌	18:00 実習日誌	17:30
18:20	18:20		
担当学芸員	安高啓明	安高啓明	安高啓明
実習生	江平③・下川④	江平④	江平⑤・下川⑤・松吉⑤

*11月14日(土)から12月1日(火)海の中道マリンワールドでの展示会につき、11月13日(金)に展示作業に参加すること

特別展企画書作り

2009.8.21

学籍番号 10AD008

氏名 江平 のぞみ

《展覧会タイトル》「星のオジさま展」

《会期》 9月6日(日)～10月31日(土)

《料金》 大人(大学生) 1200円

小人 800円

小学生以下 無料

《主催》 西南学院大学博物館、九州日仏学館、星の王子さまミュージアム

《後援》 フランス大使館、福岡市総合図書館、講談社、西日本新聞社、RKB、JAL、ANA、凸版印刷

《開催概要》

日仏国交150周年を記念して、両国の異文化理解、異文化交流を目的とする。日本人に、よりフランスを身近に感じてもらう為、年齢を問わず親しまれている、『星の王子さま』の作者サン＝テグジュペリにスポットをあてる。特に謎の多い彼の死をメインとする。

《代表的な資料》

- ・海で見つかったサン＝テグジュペリの遺品であるブレスレット
- ・海で見つかったサン＝テグジュペリの搭乗機の機体ナンバー部分
- ・サン＝テグジュペリが友人らに宛てた手紙(星の王子様の挿絵あり)
- ・『星の王子さま』の原本

《章設定》

あまりはっきりと章はつくりたくない。Ⅱをメインとして、Ⅰはサン＝テグジュペリの説明的意味で設定する。

- I. 作家 サン＝テグジュペリ
- II. 飛行士 サン＝テグジュペリ

《イベント内容》

①サン＝テグジュペリ図書館

博物館2階講堂にサンテックスの著書(日・英・仏語)を置き、自由に読んでもらう(開催中、常時)

②星の王子さまおはなし会

博物館2階講堂で開催初日の星の王子さまをRKBアナウンサーに朗読してもらう(9月6日(日))

③『星の王子さま』サン＝テグジュペリ著、あたし訳

西南コミュニティーホールにて1時間30分程度で仏語の原作の一部を訳したり、約す為のアドバイスを講演してもらう。協力は西南学院大・仏専教授。(開催中盤の(土))

③飛行士 サン＝テグジュペリ

西南コミュニティーホールにて、箱根・星の王子さまミュージアム館長による講演(9月7日(日))

特別展企画書作り

2009.8.21

学籍番号 10AR063

氏名 下川 裕未

《展覧会タイトル》「武士VS 騎士 ～道を歩む者たち～」

《会期》 1月6日(水)～2月6日(土)

《料金》 500円

《主催》 西南学院大学博物館

《共催》 西日本新聞社、FBS福岡放送、福岡県教育委員会、西日本鉄道、仏大使館、日仏協会、東京国立博物館、徳川林政研究所

《開催概要》

独特の精神論を持ち、「守る」ための存在である『武士』と『騎士』。東洋と西洋という違いはあるが精神性や時代背景など、共通点は多くある。時代背景、服装、任務、組織体制などあらゆる視点から、武士と騎士の実態を比較・考察する。また、今なお映画や小説の中で生き続ける武士と騎士をより身近に感じてもらえるような特別展とする。

《代表的な資料》

- ・等身大武士マネキン（羽織袴+模造刀）
- ・等身大騎士マネキン（甲冑+ソード）
- ・正宗磨上本阿（国宝指定）

《章設定》

- I. 武士道に生きる者
- II. 騎士道に生きる者

《イベント内容》

①なりきり武士&騎士大会

なるべく本物に近い服装・小道具を用意し、参加者に体験してもらう。道具の解説や質問コーナーなど、参加型イベントとする。

特別展企画書作り

2009.8.21

学籍番号 10AR138

氏名 松吉 有希

《展覧会タイトル》「おもちゃの世界☆」

《会期》1ヶ月（11月中旬～12月中旬） クリスマスの購買力UP！

《主催》西南学院大学

《共催》NHK、福岡県教育委員会、(財)福岡市文化芸術振興財団、(財)福岡文化財団、
福岡県PTA連合会、福岡県子ども会育成連合会、西日本鉄道、JR九州、LOVE FM、
CROSS FM、任天堂、ベネッセ、郵便局九州本部、オリエンタルランド、バンダイ、
タカラトミー

《開催概要》

17世紀から現代までのおもちゃを展示する。近年、ファミコンや任天堂DS、wiiなどゲーム機が普及しているが目で見て触れ、友達と一緒に遊ぶおもちゃを子どもたちに体感して欲しい。大人には昔のおもちゃを見て懐かしい思いにひたってもらえたら…と思い開催した。おもちゃによってそれぞれの時代背景や時代の流れを感じて欲しい。

《代表的な資料》

『世界のおもちゃ大図鑑』 デイヴィッド・プレスランド

〈1825～1895〉・蒸気エンジンつき船（行灯箱、ケースなし、パリのエディゲ社、84cm、アラン・ホワイトヘッド）

・商標プレート

・鳥のいる鳥籠（フランス製、1885年、24cm、デイヴィッド・プレスランド）

・4輪馬車

・メリーゴーランド（フランス製、1880年、18cm）

〈1895～1914〉・複葉機（1910年、30cm、ドイツ製、リリアン・ゴッチョー）

・ライト兄弟パネル

・4人乗りオープンカー（1910年、42cm、ブライアン・アプス）

・空中ボート&オルゴール（メルクリン社、48cm、1909年、エド・ホフマン）

・サーカスたち（パトリック・ライオンズ、デイヴィッド・プレスランド）

〈1918～1939〉・リムジン2台（1920年、28cm、リチャードロブソン）

・玩具3つ（カエル、人と犬、ピエロ、1930年、12cm、ジャック・ドノヴァン）

・船（40cm、アランホワイトヘッド）

・戦車2台（ジョン・ディアリング）

〈1939～現在〉・ファミコン（白と赤茶、カセット2本）

・ラジコン

《章設定》

I. 19世紀

見どころ 〈19世紀〉・手作り感（木製・手回しなど）

・上流階級向け

II. 20世紀

〈20世紀〉・大量生産のための素材の安価さ（チープっぽい）

・一般庶民向け、生活用品

・戦争による軍艦、戦車登場

《イベント内容》

①ピタゴラスイッチの人たちと遊ぶ

②バッチづくり

③DS体験！

「行こうよ！せいはいくー西南学院大学博物館の紹介ー」展

実施報告

西南学院大学博物館を中心とした大学キャンパスを紹介することで、西南学院大学をより理解してもらおうと企画したものである。本学には聖書植物園や元寇防塁のほか、クロスプラザなどの学食がある。博物館を中心としたキャンパス周辺を散策しながら、最後は大学博物館に立ち寄ってもらおうとそのルートを作成し、多くのパネルを用いて紹介した。

また、大学博物館がこれまで開催してきた特別展を紹介するとともに、同時期に開催した「ジュダイカコレクションⅡ 祈りの継承ーユダヤの生活と儀礼ー」の告知をおこなった。マリンワールドの出口付近に展示ブースを設けていただいたことから、多くの来館者の目にとまったものと思われる。

パネルの最初には昼間の大学博物館のパネルを設置し、最後は夜間ライトアップされた大学博物館のパネルを展示したことによって、昼と夜ふたつの顔を持つ大学博物館を効果的に紹介できたのではないかと。また、聖書や特別展図録を置いたことによって、大学および大学博物館に対する理解を得られたものと思う。

今回展示した写真のほとんどは実習生が撮影し、解説パネルも実習生が作成した。また展示から撤収作業まで実習生がおこなった。このように実習生3人が協力してひとつの企画展を開催することができたのは、これから社会人となるにあたってのいい経験になったのではないかと。博物館実習を通じてチームとして協働することの必要性を感じてもらえたものと考えている。

会期：2009年11月14日(土)～12月1日(火)

展示作業風景



展示会場風景



2009年度主催講演会

2009年度大学博物館主催講演会

特別展公開講座

2009年6月27日（土）14：00－16：00 聴講人数 139名

講師 安高 啓明 氏（西南学院大学・大学博物館学芸員）

『島原・天草の乱前後の江戸幕府禁教政策』

大橋 幸泰 氏（早稲田大学・教育総合科学学術院准教授）

『近世人の島原天草一揆認識』

2009年11月21日（土）15：30－17：00 聴講人数 51名

講師 大津 忠彦 氏（筑紫女学園大学教授）

『古代オリエント史におけるユダヤ』

西南学院大学大学院GP公開講座

第1回 2009年12月5日（土）14：00－16：00 聴講人数 22名

講師 高倉 洋彰 氏（西南学院大学教授・西南学院大学博物館館長）

『「行動力をもつ人社系研究者の育成」の成果報告』

第2回 2010年1月9日（土） 聴講人数 48名

講師 中園 成生 氏（平戸市生月町博物館・島の館学芸員）

『キリシタンの信仰組織—かくれキリシタン組織からの検討』

第3回 2010年1月23日（土） 聴講人数 32名

講師 安高 啓明 氏（西南学院大学・大学博物館学芸員）

『五島のキリシタンと禁教政策』

齋藤 大輔 氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程研究生）

『観光資源としての教会と地域文化—長崎県・五島列島を中心に』

第4回 2010年2月13日（土） 聴講人数 25名

講師 早瀬 遼子 氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

『人は“観光”に何を求めるのか—フォークロリズムをめぐる—考察—』

矢羽田 朋子 氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

『韓国のキリスト教について—その受容と展開—』

第5回 2010年2月27日（土） 聴講人数 22名

講師 駄田井 直子 氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

『現代中国のキリスト教に関する—考察—北京市を例に—』

アイネル・バラティ氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程）

『中央アジアにおけるイスラーム教の受容と景教』

（ネストリウス派キリスト教）の衰退～新疆ウイグル自治区を中心に～』

第6回 2010年3月13日（土） 聴講人数 31名

講師 宮崎 克則 氏（九州大学准教授）

『琉球における宗門改め』

田畑 春香 氏（九州大学大学院比較社会文化学府博士前期課程）

『琉球王家の葬儀と墓』

大部 志保 氏（西南学院大学大学院国際文化研究科博士後期課程研究生）

『琉球におけるキリシタン改めの記憶—名護市に残るキリシタン祭りを中心に—』

職員研究・社会活動

高倉 洋彰（西南学院大学博物館館長・国際文化学部教授）

【編著】

- ・キリスト教文化の東方伝播とその展開（西南学院大学大学院国際文化研究科、2010年3月）1～209頁

【論文】

- ・日本考古学教会の記録（日本考古学教会、2009年5月）131～153頁
- ・赤飯と赤酒（西南学院大学国際文化研究会、2009年11月）25～28頁
- ・したたかな小奈良・大宰府（学士会、2010年3月）86～89頁
- ・紙踏絵孝（西南学院大学国際文化研究会、2010年3月）49～72頁

【社会活動】

- ・文化審議会専門委員（文部科学省）（2002年2月5日～2011年2月）
- ・秋田市地蔵田遺跡環境整備指導委員会委員（2002年4月～）
- ・北九州市立自然史・歴史博物館協議会委員（2003年9月1日～）
- ・九州国立博物館評議員会評議員（2005年7月1日～）
- ・福岡市博物館資料収集委員（2006年7月1日～）
- ・九州国立博物館評議員会副会長（2007年4月～）
- ・福岡県文化財保護審議会専門委員（2008年4月1日～）
- ・日本考古学協会副会長（2008年5月～2010年5月）
- ・太宰府市公文館構想調査研究委員会副会長（2008年12月8日～）
- ・大学基準協会 大学評価分科会主査（2009年5月～2010年3月25日）

安高 啓明（西南学院大学博物館学芸員）

【単著】

- ・近世長崎司法制度の研究（思文閣出版、2010年1月）1～487頁

【論文】

- ・島原・天草の乱前後における江戸幕府禁教政策（春季特別展『信仰の証 - 島原・天草の乱と天草四郎 - 』西南学院大学博物館、2009年6月）32～35頁
- ・江戸幕府裁判制度に関する一考察（鈴木秀光・高谷知佳・林真貴子・屋敷二郎編『法の流通』、慈学社、2009年12月）171～207頁
- ・五島のキリシタンと禁教政策（西南学院大学大学院国際文化研究科（責任者 高倉洋彰）『キリスト教の東方伝播とその展開』、西南学院大学教育・研究推進機構、2010年3月）19～36頁

【その他】

- ・特集 長崎発「犯科帳」IV（長崎県県民生活部男女参画・県民協働課 男女共同参画推進センター編、2010年3月）2頁

【講演・発表】

- ・2009年5月16日（土）
神奈川県立歴史博物館シンポジウム五港開港場の諸相「長崎—鎖国と開国を知る貿易都市」（於神奈川県立歴史博物館）
- ・2009年6月27日（土）

第5回特別展関連公開講演会「島原・天草の乱前後の江戸幕府禁教政策」（於西南学院大学博物館 2階講堂）

- ・2009年9月6日（日）第59回長崎県地域婦人団体研究大会講演会「江戸時代社会と女性－犯科帳にみる女性観－」（於ホテル矢太楼、長崎市）
- ・2010年1月22日（金）九州大学教育研究プログラム・教育拠点形成プログラム（P & P）事業第1回セミナー「歴史系博物館の展示－ストーリーを伝えるには－」（於西南学院大学博物館 2階講堂）
- ・2010年1月23日（土）西南学院大学大学院G P 公開講座「五島のキリシタンと禁教政策」（於西南学院大学博物館 2階講堂）
- ・2010年3月24日（水）筑紫女学園大学人間文化研究所特別研究会「大学博物館の地域連携活動－西南学院大学博物館の場合－」（於筑紫女学園大学）

【社会活動】

- ・NHK文化センター長崎教室講師『古文書「犯科帳」に挑戦しよう』（2007年1月～）
- ・新長崎市史執筆委員（2010年3月～）

早瀬遼子（博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程）

【論文】

- ・怪談が流布する構造および怪談をめぐる研究序論（『西南学院大学大学院国際文化研究論集』第四号 2010年1月）153-172頁

【講演・発表】

- ・2010年2月13日（土）西南学院大学大学院G P 公開講座「人は“観光”に何を求めるのか－フォークロリズムをめぐる一考察－」（於西南学院大学博物館 2階講堂）

貞清世里（博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科博士後期課程）

【論文】

- ・観世音寺式伽藍配置をとる古代寺院の性格（『西南学院大学大学院国際文化研究論集』第四号 2010年1月）173～209頁

【講演・発表】

- ・2009年11月29日（日）九州考古学会「観世音寺式伽藍配置をとる古代寺院の性格」（於西南コミュニティーセンター）

平川 知佳（博物館臨時職員・本学大学院国際文化研究科研究生）

【論文】

- ・久留米市における性愛空間の変遷～明治期の遊廓から平成のラブホテルまで～（飯嶋秀治、菊地成朋、柴田建、野々村淑子、南博文、平川知佳、西村純子『平成21年度人間環境学研究院萌芽的学際的研究助成報告書「動的指導体制」に基づく学際ネットワーク創出の試み』、2010年3月）14～49頁

博物館刊行物



春季特別展図録

〔A4版 32頁 3000部発行 発刊日2009年6月20日〕

目次	
ごあいさつ	
西南学院大学博物館館長 高倉洋彰	2
開催趣旨	3
凡例	4
島原藩と島原・天草の乱	5
I. 島原におけるキリスト教信仰	6
コラムⅠ 信仰と拷問	9
II. 島原・天草の乱	10
コラムⅡ 禁教とその背景	17
III. 乱後の禁教政策	18
コラムⅢ 島原の復興と高札撤去	21
IV. 発掘遺物が語る原城の姿	22
論考	
寄稿	
「島原天草一揆の矢文」	
早稲田大学教育・総合科学学術院 准教授 大橋幸泰	29
「島原・天草の乱前後における江戸幕府禁教政策」	
西南学院大学博物館 学芸員 安高啓明	32
年表	36
出品目録	38
謝辞・講演会・参考文献	39



秋季特別展図録

〔A4版 32頁 3000部発行 発刊日2009年11月10日〕

目次	
ごあいさつ	
西南学院大学博物館館長 高倉洋彰	2
開催趣旨	3
関谷定夫ジュダイカ・コレクションについて	4
I. トーラー～ユダヤの『教え』～	6
II. ユダヤの生活～聖書考古学の世界～	10
コラム 陶製ランプの変遷	
コラム ユダヤ・コインについて	
「ハヌカ」～ユダヤの遊び～	
III. 儀礼～ユダヤの安息日と結婚～	25
コラム ユダヤ人の結婚	
IV. ユダヤ教会堂の姿	32
付録・参考文献・講演会	38
出品目録	39



西南学院大学博物館年報 第1号

〔A4版 48頁 1000部発行 発刊日2010年3月15日 ISSN 1884-8885〕

目次	
巻頭言	3
西南学院大学博物館沿革	5
2006年度～2008年度事業報告	
展示活動	
2007年度春季特別展報告	6
秋季特別展報告	9
2008年度春季特別展報告	12
秋季特別展報告	16
教育活動	
2006年度～2008年度主催講演会	20
博物館講堂使用状況	21
来館者動向	
来館者統計	23
特別展期間別来館者統計	27
来館団体一覧	32
寄贈図書一覧	35
博物館規定	
西南学院大学博物館規程	40
西南学院大学博物館管理運営規則	41
西南学院大学博物館協議会規則	43
西南学院大学博物館講堂使用内規	44
西南学院大学博物館(ドージャー記念館)パイプオルガンの管理及び使用に関する内規	46
博物館組織	
西南学院大学博物館概要・組織・職員構成	47



講堂利用一覽

期 日	使用時間	使 用 団 体 (者)	集 会 名 称	備 考
4月 3日(金)	9:00~13:00	神学部	神学部始業礼拝	80名
4月10日(金)	8:20~14:00	西南学院中学校	新入生オリエンテーション	198名
4月24日(金)	10:00~17:00	福岡コダゲーイ芸術教育研究所	音楽セミナー	48名
4月25日(土)	10:00~17:00	福岡コダゲーイ芸術教育研究所	音楽セミナー	71名
4月26日(日)	10:00~17:00	福岡コダゲーイ芸術教育研究所	音楽セミナー	81名
6月19日(金)	16:00~21:00	福岡バツハコレギウム	定期演奏会練習	-
6月20日(土) ~7月31日(土)	10:00~18:00	博物館事務室	2009年度春季特別展	-
6月20日(土)	18:00~21:00	福岡バツハコレギウム	定期演奏会練習	-
	13:00~19:00	福岡バツハコレギウム	定期演奏会	300名
6月27日(土)	9:00~13:00	キリスト教保育連盟	キリスト教保育連盟 式典	300名
	14:00~16:30	博物館事務室	公開講演会(講師:西南学院大学博物館 学芸員安高啓明氏、早稲田大学教授大橋幸康氏)	139名
7月 4日(土)	9:00~21:00	ダイアログ・ネット・チャリティー・ コンサート2009	コンサート準備、リハーサル	-
7月 5日(日)	11:00~21:00	ダイアログ・ネット・チャリティー・ コンサート2009	コンサート	350名
8月 8日(土)	11:00~15:00	入試課	森高校説明会	40名
8月22日(土)	9:00~16:00	国際文化学部 栗原詩子准教授	合唱コンサート リハーサル	-
8月28日(金)	12:00~21:00	RKB毎日放送(学外連携講師吉田直史)	アナウンサーの朗読会会場準備・リハーサル	-
8月29日(土)	9:00~17:00	RKB毎日放送(学外連携講師吉田直史)	アナウンサーの朗読会	481名
9月10日(木)	11:00~13:00	ハザマ写真場 波左間達郎	撮影	6名
9月11日(金)	13:00~18:00	桑原孝広	2009年12月13日の演奏会のための練習	-
10月23日(金)	18:00~20:30	西南学院高等学校同窓会	講演会	120名
11月 2日(月)	10:30~14:30	神学部	神学部ミッションデー(講演会)	50名
11月 7日(土)	10:00~15:30	(株)キャンパスサポート西南	結婚式	60名
11月 7日(土)	15:30~18:00	M.R.B音楽実行委員会	2009年12月13日の演奏会のための練習	6名
11月11日(水)	9:00~10:30	国際文化学部 今井尚生教授	キリスト教学講義	109名
11月21日(土)	15:00~17:00	博物館事務室	公開講演会	51名
11月26日(木)	9:00~10:30	国際文化学部 今井尚生教授	キリスト教学講義	54名
11月27日(金)	18:00~21:00	神学部 須藤伊知郎教授	コンヴィヴィオム・ジカーレ コンサート	70名
11月28日(土)	10:00~18:00	九州考古学会	九州考古学会	170名
12月 5日(土)	14:00~16:30	大学院GP	公開講座	22名
12月10日(木)	15:00~18:00	後藤桂子	コンサート練習	-
12月11日(金)	9:00~10:30	人間科学部 古田雅憲教授	講義	56名
	13:00~18:00	後藤桂子	コンサート練習	-
12月12日(土)	10:00~15:00	(株)キャンパスサポート西南	結婚式	130名
12月13日(日)	13:00~18:00	桑原孝広	古楽器演奏会	72名
12月18日(金)	18:00~21:00	人間科学部 渡邊均教授	バツハコレギウム演奏会練習	-
12月19日(土)	10:00~16:30	福岡聖書研究会 秀村弦一郎	キリスト教講演会・演奏会	115名
	18:00~21:00	人間科学部 渡邊均教授	バツハコレギウム演奏会練習	40名
12月20日(日)	13:00~18:30	人間科学部 渡邊均教授	バツハコレギウム演奏会練習・演奏会	207名
1月 9日(土)	14:00~16:30	大学院G P	公開講座	48名
1月15日(金)	10:10~11:10	人間科学部 古田雅憲教授	講義	55名
1月19日(火)	16:50~18:20	神学部	白杵陽先生学術講演会	52名
1月21日(木)	15:10~16:40	神学部	寺園善基教授 最終講義	52名
1月22日(金)	13:00~16:30	九州大学総合研究博物館	三大学博物館セミナー	200名
1月23日(土)	14:00~16:30	大学院G P	公開講座	40名
2月13日(土)	14:00~16:30	大学院G P	公開講座	25名
2月27日(土)	14:00~16:30	大学院G P	公開講座	22名
3月13日(土)	14:00~16:30	大学院G P	公開講座	31名
3月18日(木)	13:00~15:00	神学部	卒業礼拝	90名
3月 6日(土)	12:00~12:40	西南高校OB36会 深浦義彦	50周年記念	35名
3月21日(日)	12:30~17:30	MI・らん・NE	リハーサル	6名
3月22日(月)	9:30~17:00	MI・らん・NE	コンサート	62名
毎週月曜日	11:00~12:00	神学部	チャペルアワー	-
毎週木曜日	13:30~15:00	神学部非常勤講師 青野詔子	神学部講義 教会音楽A、B	-
毎週金曜日	10:40~12:10	神学部非常勤講師 青野詔子	神学部講義 教会音楽研究A、B	-

3. 来館者動向

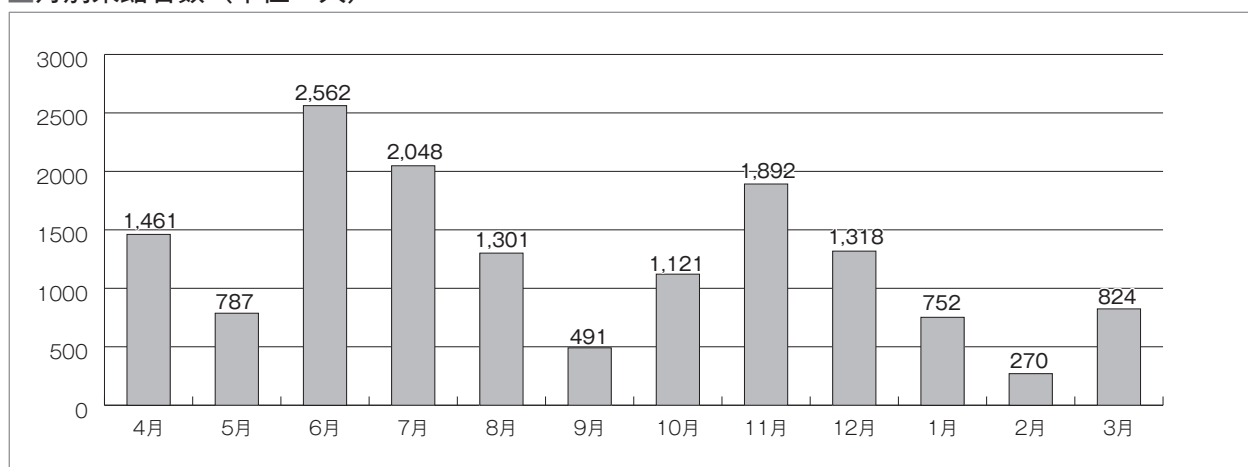
来館者統計

開館以来来観者数 50,803人
 2009年間来館者数 14,827人
 2009年度 2006~2008年間来観者数 35,976人

■2009年度 月別来館者統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開館日数	27	26	27	28	21	26	27	26	24	22	24	27	305	
学内	教職員	151	21	50	80	41	41	24	31	31	15	23	22	530
	本学学生	586	301	398	565	56	83	273	525	299	141	25	114	3,366
	学内小計	737	322	448	645	97	124	297	556	330	156	48	136	3,896
学外	大人(一般)	483	412	1,425	1,015	815	310	597	1,096	694	575	189	410	8,021
	他大学生	34	5	44	61	53	12	18	20	3	6	4	6	266
	高校生	4	22	549	247	243	33	192	83	286	2	20	253	1,934
	中学生	194	6	2	29	63	4	1	11	0	2	7	1	320
	小学生	6	8	91	40	24	7	10	107	1	5	0	8	307
	幼児	3	12	3	11	6	1	6	19	4	6	2	10	83
学外小計	724	465	2,114	1,403	1,204	367	824	1,336	988	596	222	688	10,931	
海外居住者	34	11	24	167	194	17	8	19	7	39	40	39	599	
男女比	男性	283	291	357	491	303	203	275	599	358	156	112	212	3,640
	女性	322	382	396	599	378	159	276	661	355	218	133	150	4,029
	不明	856	134	1,809	958	620	129	570	632	605	378	25	462	7,178
合計	1,461	787	2,562	2,048	1,301	491	1,121	1,892	1,318	752	270	824	14,827	

■月別来館者数(単位:人)



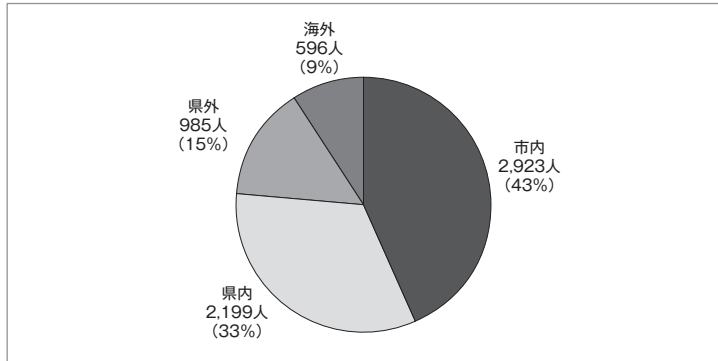
■月別開館日数(単位:日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
27	26	27	28	21	26	27	26	24	22	24	27	305

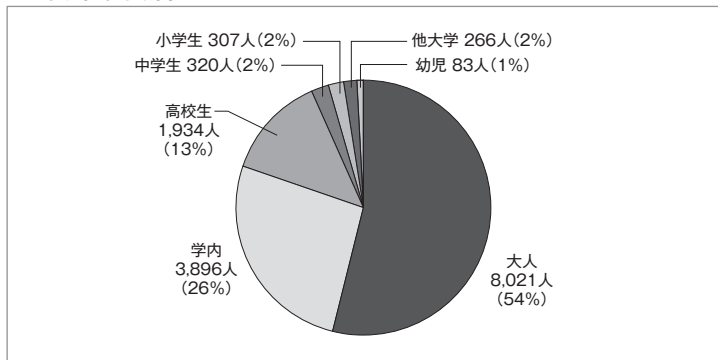
■月別1日あたり平均来館者数(単位:人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
54.1	30.3	94.9	73.1	62	18.9	41.5	72.8	54.9	34.2	11.3	30.5	48.6

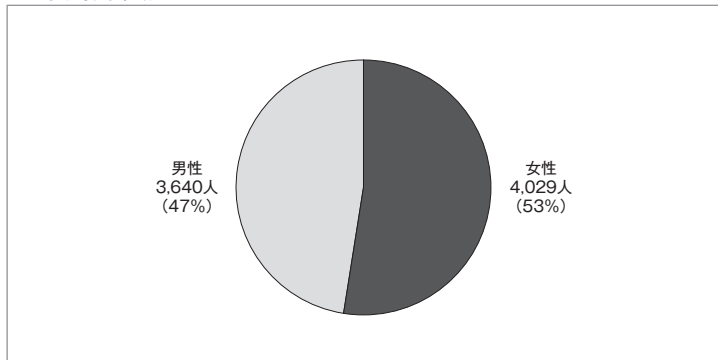
■年間居住地別



■年間年代別



■年間男女比



来館者傾向

- ・2009年度に限らず、大学の長期休暇期間（夏休み8、9月、冬休み及び春休み12月末～3月）は来館者数が減少する傾向がある。
- ・年代別の内訳をみると、6月は大人1425人、学内448人に対し、9月は大人310人、学内124人となっており、長期休暇のため、本学学生の来館者が減少するだけでなく、一般の来館者も減少している。
- ・博物館が大学の敷地内にあるため、長期休暇で大学が休み＝博物館も休館と認識されている可能性もある。また、長期休暇時と同様に、休日開館の日も来館者の数が少ない。
- ・大学が休みの場合も博物館は開館していることを、認識してもらう必要がある。

■展示品人気ランキング (ジュダイカ展含む)

順位	展示品	票数
1	魔鏡	48
2	トーラー	24
2	踏絵	20
5	聖書	19
4	最後の晩餐の絵画	16
6	陶製観音マリア像	13
6	結婚指輪	13
8	ケトウパー	11
9	冠	10
10	死海文書	8
10	エトログボックス	8
10	ヤド	8
13	中国様式の最後の晩餐	7
13	メズーサー	7
13	オイルランプ	7
27	ドージャーゆかりの品	6
16	蠟燭立て	5
16	ケニコック聖書	5
16	イコン	5
16	スピボン	5
20	ヘレンケラーの写真	3
20	ロゼッタストーン	3
20	写本	3
20	シャバトランプ	3
20	スパイスタワー	3
20	ハブダラセット	3
27	宗門改め帳	2
27	大秦景教中国碑	2
27	小壺	2
27	ジュダイカボックス	2
27	大型ハヌキヤ	2
27	貨幣	2
35	教皇の銅像	1
35	修道女の銅像	1
35	グーテンベルク42行聖書	1
35	リンデのスファーン福音書	1
35	エチオピア聖母像	1
35	エデン追放の絵	1
35	インドの宣教師像	1
35	角笛	1
35	木製マリア	1
35	キリスト像	1
35	ドージャー先生の日記	1
35	大学史コーナー	1
35	「聖ゲオルギウス」のかかれた絵	1
35	メシヤ碑文	1
35	洪水物語の粘土板	1
35	胸当て	1
35	経礼小箱	1
35	結婚誓約書	1
35	聖書の民	1
35	ノアの洪水	1
35	キリシタン制札	1
35	パロケット	1
35	ネルミタード	1
35	聖書の民 イスラエルの歴史	1
35	レンガ造りの建物	1
35	サマリヤ五書	1
35	ラビス・ラズリ	1

特別展期間別来館者統計

		2008年度		2009年度	
		春季	秋季	春季	秋季
タイトル		使命としての建築 ～ウィリアム・メレル・ヴォーリスと西南学院～	境界は出会いの場 非西欧圏のキリスト教文化 西南学院大学博物館新収蔵品展	九州のキリスト教シリーズⅠ 信仰とその証 —島原・天草の乱と天草四郎—	ジュダイカ・コレクションⅡ 祈りの継承 —ユダヤの生活と儀礼—
開催日程		5月12日～7月5日	10月27日～12月13日	6月20日～8月2日	11月10日～1月16日
開催日数		48	44	39	53
学内	教職員	—	—	104	66
	本学学生	968	714	701	330
	学内小計	968	714	805	786
学外	大人(一般)	1,438	1,371	2,346	1,877
	他大学生	37	13	103	23
	高校生	201	119	338	291
	中学生	6	119	30	12
	小学生	15	14	44	109
	幼児	95	11	14	23
学外小計	1,792	1,647	2,875	2,335	
海外居住者		62	29	191	43
男女比	男性	699	501	758	918
	女性	686	583	904	1,024
	不明	1,375	1,528	2,018	1,179
合計	2,760	2,361	3,871	3,121	
日数平均		57.5	53.7	99.2	58.9

※「—」は未統計を示している

2008年度



春季特別展

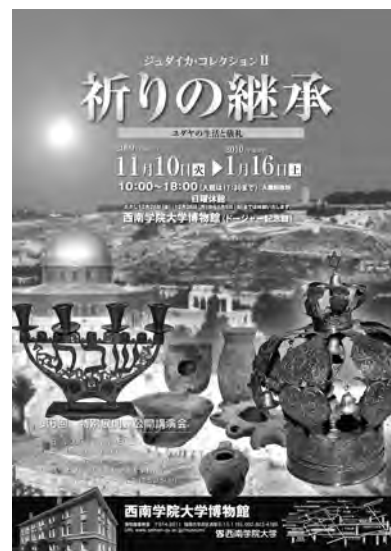


秋季特別展

2009年度



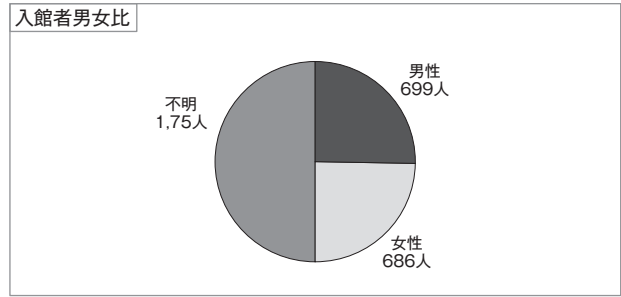
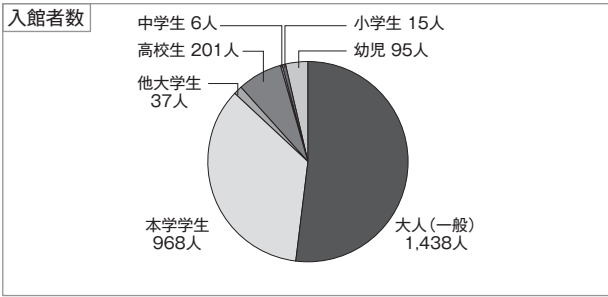
春季特別展



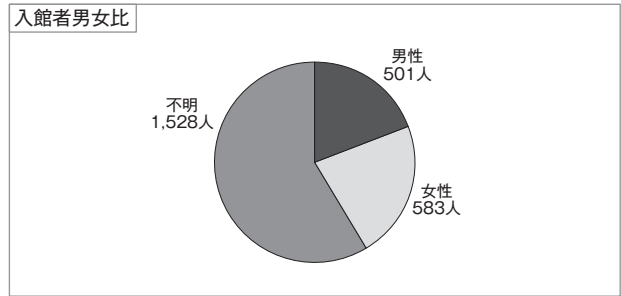
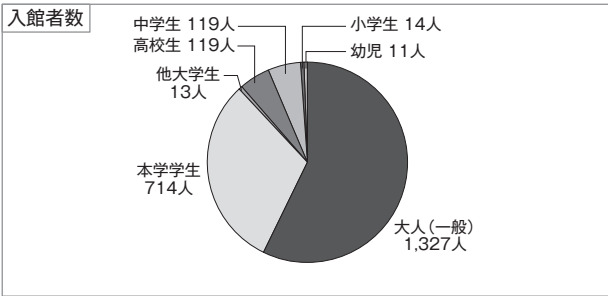
秋季特別展

特別展期間中来館者動向

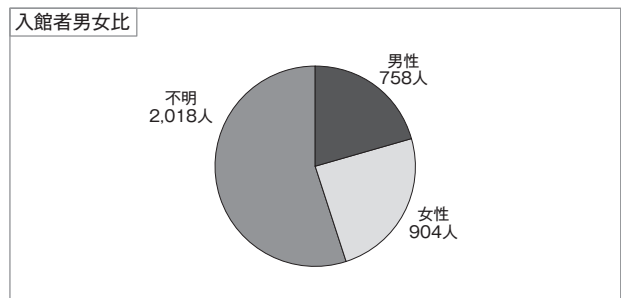
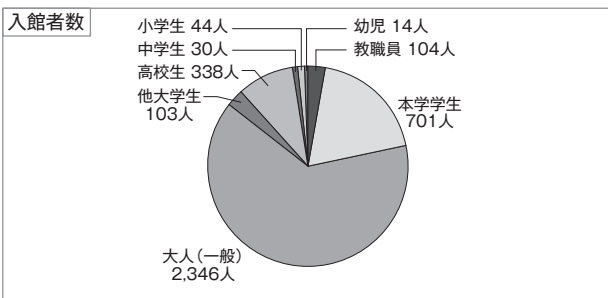
■2008年度春季特別展「使命としての建築～ウィリアム・メレル・ヴォーリスと西南学院～」



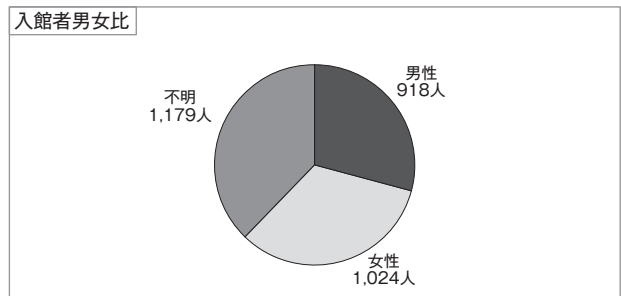
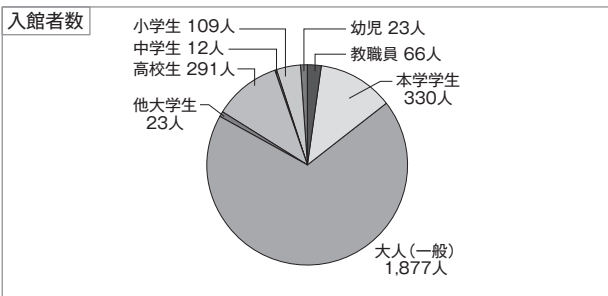
■2008年度秋季特別展「境界は出会いの場 非西欧圏のキリスト教文化 西南学院大学博物館新収藏品展」



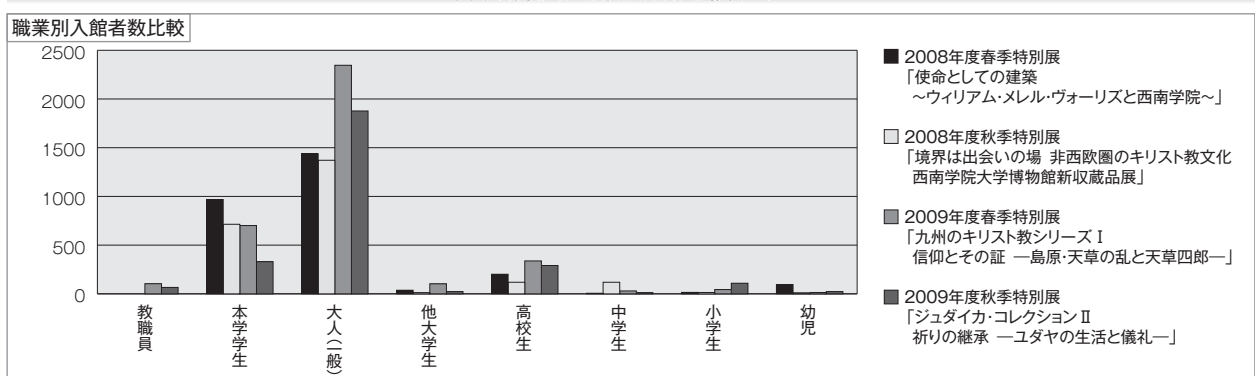
■2009年度春季特別展「九州のキリスト教シリーズⅠ 信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎—」



■2009年度秋季特別展「ジュダイカ・コレクションⅡ 祈りの継承—ユダヤの生活と儀礼—」



各特別展入館者数比較グラフ

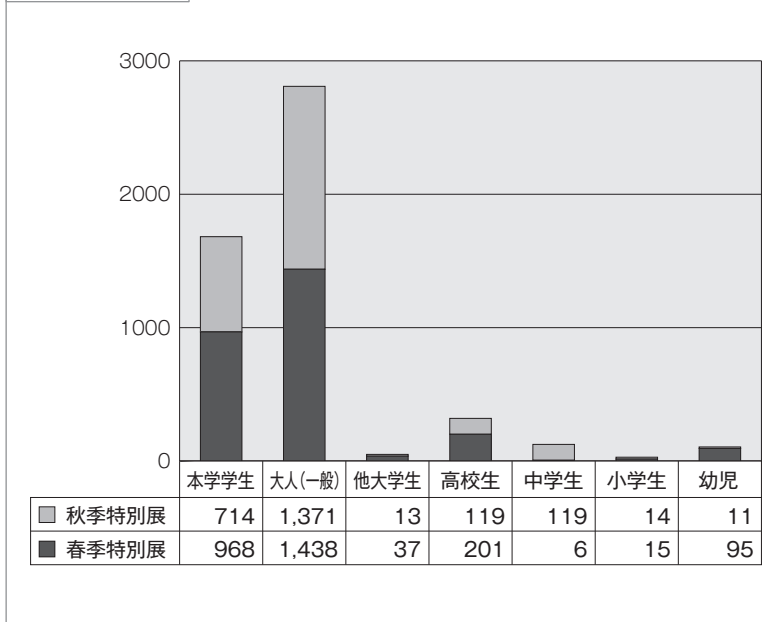


各年度別特別展入館者数比較

■2008年度春季・秋季特別展

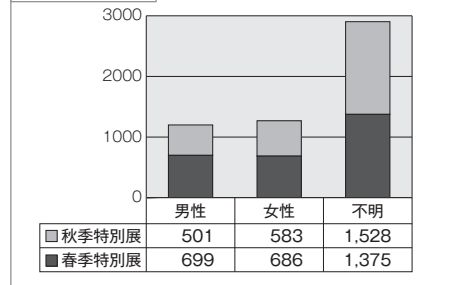
職業別入館者数比較

単位:人



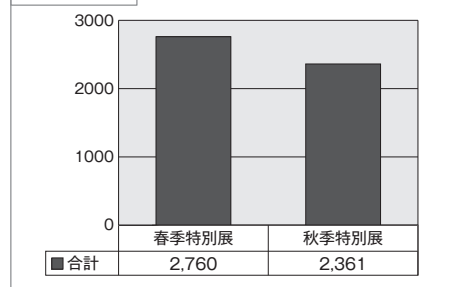
入館者数男女比

単位:人



入館者数合計

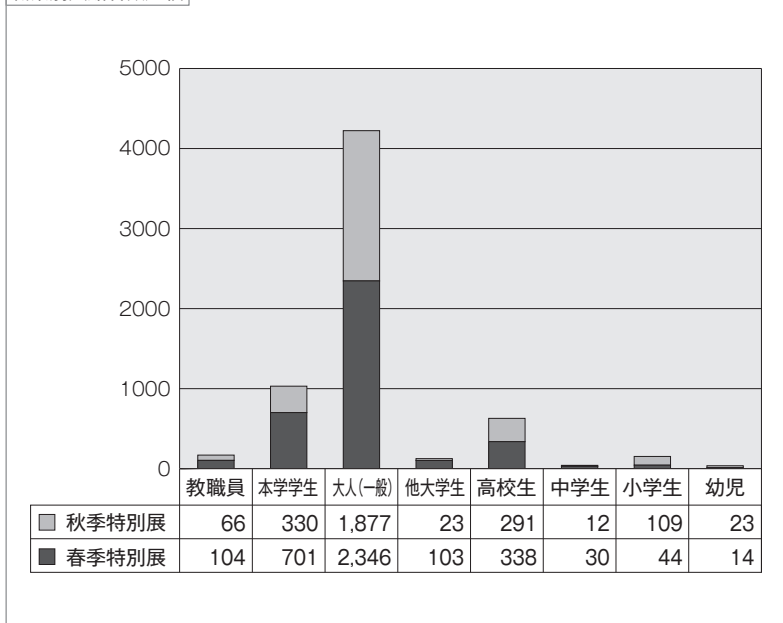
単位:人



■2009年度春季・秋季特別展

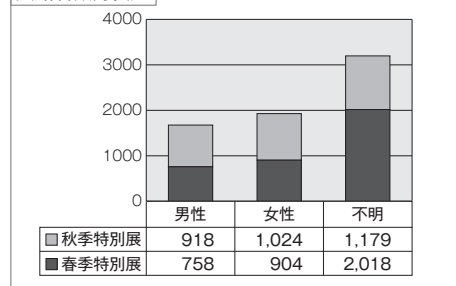
職業別入館者数比較

単位:人



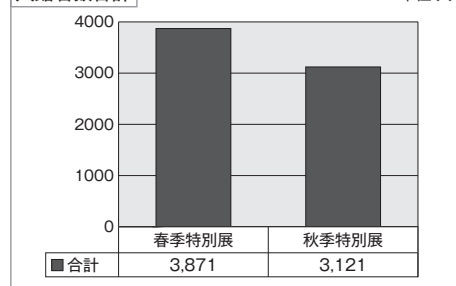
入館者数男女比

単位:人



入館者数合計

単位:人

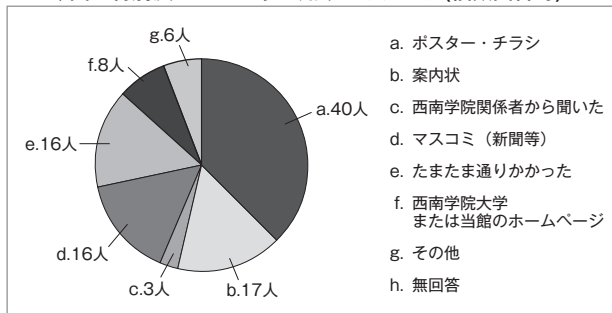


※教職員統計は2009年度より開始。そのため2008年度の教職員統計はなし。

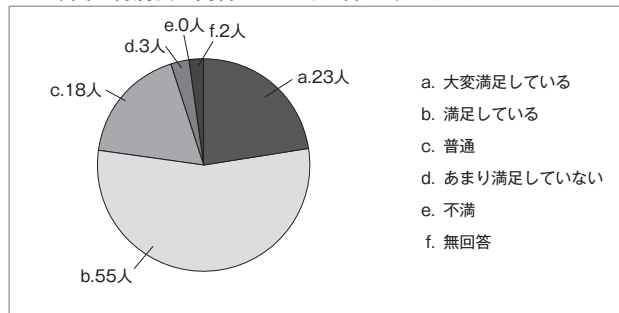
- ・2008年度は春季に比べ、秋季の集客が減少しているが、これは春季に行った「使命としての建築—ウィリアム・メレル・ヴォーリズと西南学院—」展の内容が西南学院大学博物館に関係したものであったこと、また巡回展であったことなどが関係していると思われる。
- ・2009年度の特別展の集客を見てみると、前年度と比較して伸びていることがわかる。これまでおこなわれなかった歴史展示だったことや、特別展開催の案内状を見て来られる方や、リピーターの増加もあると思われる。
- ・しかし、2008年度も2009年度も本学関係者の来館が非常に少ない。講義やレポートなどで活用されているものの、まだ学内では認知度が低い。今後学内に向けて博物館をいかにPRするかが課題である。

2009年度特別展「信仰とその証～島原天草の乱と天草四郎～」アンケート集計

1. 今回の特別展をどのように知りましたか。(複数回答可)



2. 今回の特別展の内容についてお答えください。



3. アンケート

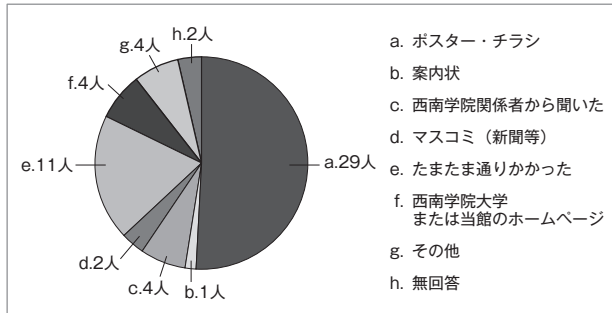
年齢	性別	職業	意見・感想	興味を持った資料	今後の特別展のテーマ
78	女	その他	よく保存されていることがいい点だと思います。	細かい土器など	
—	女	その他	キリスト教関係のものをみれて良かった。		
61	男	勤労者		墓の模型	このシリーズの続編に期待しています。
19	男	学生	展示物の文化的価値が良く分かった。		
45	男	その他	原城関係出土品が興味深かった。	メダイ	
20	男	本学学生	実物を見て良かった。	石碑	
42	男	その他	原城の模型や民衆の姿が見える資料があると尚良い。		
53	男	その他	島原の乱に興味があったが、原城跡からの発掘で新しい成果が紹介されていて良かった。	銃弾から作られた十字架	原城跡発掘の成果を今後も続けて展示する機会を作って欲しい。
42	女	その他		ロザリオ	
66	男	その他	天草・島原の乱の年表が詳細に記入されており大変参考になった。	年表及び原城跡の資料	
77	男	その他	展示品がもう少し多いと思っていました。「非西欧圏のキリスト教」と比べてみてです。しかしこれだけの展示は大変でしょう。キリシタン大名のその後はどうなったのでしょうか。今、現在その子孫などは。	島原や五島など旅して廻ったのですが、鉛玉で作った十字架など、涙ぐましい信仰の証だと思います。	
19	女	本学学生	当時の様子が伺えた。またキリシタンの信仰の強さを感じるものができました。	仏像に似たマリア像。	
70	男	その他	現代まで続く、信仰、精神世界の始祖を考えることができた。		
60	女	その他	島原まで行かずと近くで見られた。		
79	男	その他	系統的展示。よくわかる。	江戸時代、隠れキリシタン。	
36	男	勤労者	歴史的な経緯が良くわかった。	踏絵の実物。	明治以降のキリスト教伝道について
68	男	勤労者	当時の貴重な資料をみる事ができた。当時の実物を見る事が出来たのは大変興味深いことです。	島原・天草の乱と天草四郎の展示物・踏絵	キリスト教と関係の深い歴史的な出来事をテーマにした展示
66	男	その他		原城攻撃配置図および天草軍の配置図	
43	女			ロザリオとかクロスとか	キリスト教関係
61	女	その他	以前に原城の展示を見たことがあったと思いますが、その時よりもキリスト教との深い関わりを静かに考えることができました。		戦争のない世界の為にキリスト教がどういうことを行っていたのか、また行ったのか...というような展示を見てみたいです。
57	女	本学職員	天草四郎の信仰の強さ、熱心さを改めて感じた。	逆さ十字架	26聖人、セフ修道士のこと
20	男	本学学生	実物がよかった。	十字架	歴史深いものならなんでもよいです。
84	男	その他	乱のアウトラインがよくわかった。	富岡城、原城、天草本土の戦で幕府側の数、農民側の数、戦死者の数などを示してもらえばよいと思います。尚、詳しくなります。	
72	男	その他	展示品に感動しました。	長崎にしばらく在住しキリシタン関連の話に興味を持ちました。砲弾その他すべて。	
48	女	その他	原城が、その後どうなってしまったかもあるとよかった。	東照大権現様宗門御定書	九州のコレジヨ
75	男	その他	はじめて見るものが多かった。特別展はじめ、博物館のキリスト教関係の展示などいつも楽しみです。	原城内で鉄砲の弾から作った十字架	九州におけるオランダ等の南蛮貿易などについて
65	—	その他	身近な所で見学できてよかった。		
—	—	その他	日本におけるキリスト教弾圧の歴史がよく分かった。	紙踏絵	
56	男	勤労者	展示にいたるまでの御努力に敬意を表します。メダイの裏側を紹介されておりましたが、まったくわかりませんでした。	墓石。もう少し詳しい説明がほしかった。	ドロ神父、・個別の神父のことなど取り上げてほしい。
71	男	その他	原城出土品の展示が良かった。	銃弾を改鑄した十字架	九州の切支丹大名
62	男	その他	資料が多数でまとまりがあった。		
55	女	その他	数は少ないですが、メダイ・十字架・マリア観音砲弾まで展示されていたので満足しています。	ロザリオ (コンタツ) には十字架がついていなかったのですが、何故ですか。	
67	—	その他	島原・天草の一揆が単なる宗教戦争ではなく経済的な苛性の問題もあったという視点がはっきりした。	鉛で作った小さなメダイや十字架、戦のなかで信徒たちが抛りどころとした、その状況がまぶたに浮かぶように感じた。	
72	男	自営業	禁教時代の様子分かる踏絵など興味深い。	最後の晩餐の画で寝そべって食べている図。当時の習慣が分かって興味深い。	
49	男	その他	日本の始めの頃のキリスト教者の苦勞など、かいま見えました。	逆さ十字架、マリア観音像	
46	女	その他		マリア観音様はすばらしかった。	キリシタン関係
21	男	本学学生	キリスト教の素晴らしさに加えて、キリスト教の悪い部分を伝えるべきではないか。	「逆十字」の違いは何なのかということ。鉄砲玉で作った十字架(何故わざわざ鉛で作ったのか)。	十字軍遠征 (キリスト教が犯した罪) 帝国主義とキリスト教
66	男	その他	宗教的なことは勿論ですが、生活感が前回のカクレキリシタン展に比較すると内容がうすい。	歴史的観念を宗教と生活感を示された方が良かったと思う。	
64	男	勤労者	島原の乱がキリシタンか領主の虐政によるのか疑問が分かってよかった。非常に奥が深いと思った。		元寇
74	男	—	詳細に解釈しているがもう少し分かるようにしてください。	見物の順序と説明をつけてください。	またまた九州・沖縄にあるものを飾ってほしい。
66	男	その他	福岡ではなかなかこんな催事はないので大変よかった。	信者の人に信心物を実際に見てほしい。	このような企画が続いてほしい。
78	男	自営業	先代が柳川より島原の乱に出兵しておりますので非常に関心がありまして、その展示が見れて良かったです。		

年齢	性別	職業	意見・感想	興味を持った資料	今後の特別展のテーマ
19	女	本学学生		象牙製聖母マリア像。聖母は何を指しているのでしょうか。	
33	男	勤労者		天草一揆陣営図	
67	男	本学職員	わかりやすい、綿密なお話でした。天草・島原の一揆そのものの説明がもっとほしかった。		
51	男	自営業	普段聞けないような話を詳しく聞いてよかった。興味がある話で大変楽しかった。毎回楽しく聞かせてもらっています。このような講演会が長く続くことを願います。	マリア観音、メダイ、貿易陶磁器	キリスト教と医学、アルメイダとその影響
71	男	その他	歴史資料(キリスト関係)の閲覧は初めて。期間中再度閲覧したい。		
56	男	勤労者		砲弾	
69	—	その他	年代、内容をきちんと整理、展示されています。今後も色々な資料をよろしく願います。		
41	男	自営業	この展示を見ることで個人の自由、政教分離など今では当たり前になっていることへ感謝できたので大変満足しております。本日、講義を拝聴しました。大変興味深かったです。チャペルで話を聞くと昔からの習慣で眠たくなります。		西南学院の歴史を誰かにお話してほしい。
49	男	その他	良くこれだけの物を大切に保管して下さって有り難う。		
45	女	その他	隠れキリシタンに興味がある。2階の原城がどこにあるかわからなかった。		パテレン関連、キリシタン大名
64	女	その他	なかなか目にふれることのない資料を拝見することができた。きびしい命とひきかえに信仰が守られてきた証。	陣営図、鐔にまで(武士の魂としての刀の)印をつけていたこと。	
58	女	その他	展示品が少ない。天草の資料もみたかった。		明治初期からの宣教師(九州において)
59	女	その他	島原の乱について初めて展示を見ました。	原城の人骨写真にはショックでした。盾がおもしろかったです。	カトリックとプロテスタントの関係
77	男	その他	材料不足。沢山揃えるのは無理と理解できる。あとは想像させてあげよう。	小十字架、弾痕	
57	女	勤労者	幕府に抵抗して信仰を守り通した方々の足跡に触れて勇気付けられました。	マリア観音	
48	男	自営業	乱に関わる古文書が多くあったことが良かった。	原城図にキリシタン側の人名があったこと。	
43	女	自営業	全体的に良かった。ちゃんと展示が分かりやすかったため。		
28	女	勤労者	今、日本キリスト教史を学んでいるのですが、ちょうど禁教時代に触れる資料を目の当たりにし、当時のクリスチャンを思い涙が出ました。次回も期待します。		
50	女	その他		天草一揆について	かくれキリシタンについて(生月・長崎県の など)
61	女	勤労者	少ない、天草の乱の意味がわからない。(なぜ、乱がおきたのか、そして四郎のその後?)又、天草-島原へ旅行します。資料館にも行ってみます。ビデオテープは分かりやすく、良いと思う。	ユダヤ教→キリスト教になった。どこが伝わって同じか、どこが変化か。	
51	女	勤労者	実物資料をじっくりと見ることが出来ました。	天草一揆陣営図	
40	男	自営業	原城の絵図、発掘風景が良かったです。	年表がよかったです。	
66	男	その他	潰れた鉄砲玉の弾丸が記憶に残っています。	2年程前、原城に行き発掘作業が進んでいました。人骨を見て、改めて多くの人がこの地で亡くなったことを肝に銘じました。	明治初年のキリスト教圧制と、その解放関連の動き。
54	女	その他		かくれキリシタン十字架が、興味をひいた。	
69	男	その他	天草四郎の絵(当時の服装がよくわかる)マリア観音の展示、メダイ、ロザリオ等当時のの信心グッズの展示が良かった。	ビデオによる聖書の世界はイスラエルの聖地の様子が分かりやすかった。	
36	女	勤労者	解説、天草四郎の絵に興味を持った。		長崎のキリシタンについてなど
46	男	勤労者	郷土史の関係(長崎)からも大変興味深かったです。	キリシタン関係年表	
64	男	自営業	島原の乱関係の展示資料が少なかった。	原城の闘いで使われた弾丸や発掘された人骨(写真)。	
65	女	その他	史料が少ななくてがっかりしました。でも歴史的なことはよくわかりました。	聖書の(古代)のことや、その歴史がわかりよかったです。	
68	男	その他	島原の乱の時代背景を今一度学ぶことが出来ました。15~16才の天草四郎の生い立ちを含め、その人物像にキリストとの出会いや信仰の歩み等もう少し掘り下げてほしかった。	原城の戦いの中で信徒の結束を示す為の十字架。	
61	男	本学職員	展示物とわかりやすい解説が良かった。	島原・天草の乱がキリスト教と深く関係していたとの指摘。	日本のキリスト教会やキリスト教系大学が戦時体制に組み込まれていく時期の問題。
50	女	その他	原城の写真が興味深かった。たまたま前を通りかかったらやっていたので。今年正月は東京で江戸時代に火刑にされた場所を訪れました。特に好きなのはベテロ岐部です。昔の人達の強さに心づかれます。		
48	女	勤労者	当時の雰囲気を感じられました。	当時の方々の使われていたロザリオや聖母子像。	
10	女	その他	昔の物やかいどうがあるし、目で見れるからすごいと思いました。今日はすごかったです。		もっともっといえさまのことを知りたい。
60	男	自営業	年表が詳細だった。	発掘品と年表での尾張での処刑者数	日本各地のキリシタン塚
46	男	勤労者	天草一揆陣営図に興味を持った。	天草一揆陣営図	イスラム教の展示
10	男	学生	普段見れないものが見れるから良かった。	メダイなどいろいろ	ウォーリス展など
42	女	その他	天草四郎のことについてよくわかった。		
49	男	勤労者	説明がわかりやすいことが良い点だと思います。	原城に関する資料	キリシタン大名について。
67	男	勤労者	長い間島原の乱について知りたく思っておりましたのでこれに関する色々な貴重な資料に接することが出来幸せでした。	展示のそれぞれの説明文(英文)に多少のミスがある点です。	キリシタン関係のものをもう少し見る機会があればと思います。
39	女	その他	今まで知らなかったキリスト教信仰の事、天草四郎の事を知ることが出来ました。		
15	女	学生	普段見られない物が見れたので良かったです。		魔鏡と天草一揆陣営図
44	女	その他	九州のキリスト教の流れを確認できたから良かった。	書物	九州のキリスト教信仰を的を絞って開催してほしい。
41	女	勤労者	偶然、近くのホテルへとまり、ポスターを見て伺いました。このよつな展示を見る機会はありませんでしたので良かったです。		
49	女	自営業	聖書で学んでいても目で見ることによってより理解できました。		
28	女	勤労者	ざれいでわかりやすかった。もう少し、島原の乱の展示が多いと良かった。	世界史年表、もっとくわしく知りたいと思った。	聖書の内容を詳しく理解できるようなもの。
62	女	その他	天草の乱が月日順に表されている。		
33	男	自営業	世界のキリスト教文化に触れられる点が良かったです。心が少しおちつきました。	島原・天草の資料	ゴスペル等のルーツ等
48	女	その他	年表があり理解しやすかったしコンパクトな展示でよかった。	写真関係	時々来ています。たのしみです。
52	女	その他	いつもわかりやすい展示方法がありがたいです。		
48	男	勤労者	展示の仕方が良かった。		
63	男	その他	特別展にしては展示数が少なく物足りなかった。		

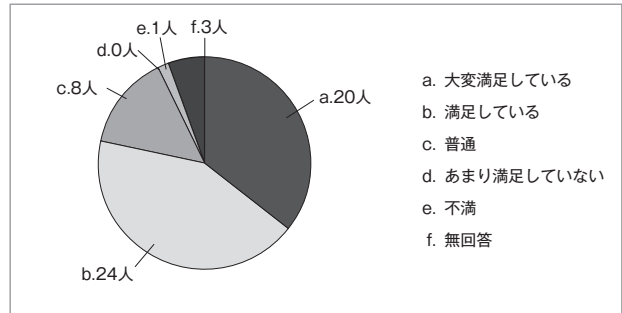
※—は無回答を示している。

2009年度特別展「祈りの継承～ユダヤの生活と儀礼～」アンケート集計

1. 今回の特別展をどのように知りましたか。(複数回答可)



2. 今回の特別展の内容についてお答えください。



3. アンケート

年齢	性別	職業	意見・感想	興味を持った資料	今後の特別展のテーマ
68	男	その他	あまり知るチャンスがないユダヤ教について少し知ることが出来ました。	ユダヤ教独特の祭儀に使う道具類	異教宗教同士の共通点に関するもの
34	男	本学学生		ガラス製品	
50	女	その他	自身キリスト教なのでイコンなど拝見できてよかった。	イコン	
52	女	その他	ユダヤの生活と儀礼の色々なコレクション、素晴らしい!	トラー、結婚指輪	
54	女	本学教職員	名前しか知らなかった品物を見ることができた点。	様々な聖書(時代や場所によって異なる聖書)	
44	男	勤労者	貴重な資料の数々に驚いています。また古代から近現代へと受け継がれている信仰の流れがうかがえる展示だと思えます。	トラー	日本におけるキリスト教伝道の歴史
47	女	その他	無料なのにとても貴重なものがみれた。	結婚指輪	歴史的なもの
-	女	その他	珍しい宝物を見れてよかったです。今後の催し物も、是非期待しています。	ろうそく立て	
45	女	その他	今後の催し物も、是非期待しています。	結婚指輪	キリスト教に関するもの
53	男	勤労者	興味のあるユダヤ教について学べた。	トラー聖書	
48	女	勤労者	普段なかなか観る機会のないユダヤ教のことに触れることができた。		
22	-	学生	いろいろなものを見れてよかった。		キリスト教と日本
21	女	本学学生	珍しい展示物がいっぱいあって楽しかった。		
50	男	本学教職員	ユダヤ教のことが分かってきた。深いものがある。	ランプ。意外に大切ということが面白い。	宗教と政治、経済、教育との関連
67	男	勤労者	貴重なコレクション。驚きました。		関谷コレクションの続きを是非!
52	女	その他	ユダヤ教はなじみがなく貴重な資料と思った。	トラーケースや指輪など	かくれクリスチアンなどの生活など
33	女	勤労者	貴重なものがゆっくり、見られることがいいと思います。	ランプ、全て、ユダヤ教についてほとんど知らないのです。	九州と景教
22	男	本学学生	ユダヤの生活や儀礼について分かり易く知ることができて良かったです。特に、安息日を大切にしていることもよく分かりました。	ヤド。結婚指輪(人差し指につけるということを聞き、文化の違いを感じました)。スパスタワー。	アジアの中のキリスト教
25	男	勤労者	各時代の聖書など普段見る機会のないものがたくさんあったところが良かったです。とても興味深かったです。		日本におけるキリスト教の普及に重点をおいたものが見てみたいです。
77	男	その他	俳人として、五島や生月島、平戸などを旅行して教会を廻ります。今回の展示も大層、勉強になりました。	ユダヤの暦、ランプ、美しく豪華な燭台、その他、祈りのための工芸品	
20	女	本学学生	素晴らしいコレクション。ジュダイカコレクションはとても面白いのでまたやってほしいです。	ヤド	
61	-	その他		聖書の民のイスラエルの歴史のパネルがリーフレットで欲しかった。	宗教絵画のシンボルと意味など興味あります。
50	男	勤労者	シンプルですが、的を射た説明はさすがですね。日本人にはユダヤ教の知識がないので、悪くはないと思います。ずっと展示されていればと思いましたが。日本人にユダヤ、キリスト教を本当に理解して欲しいですね。	メズーザ、ハヌキヤ。自宅にもありますがお土産なので、本物は違います。	まだまだイスラエル各地から新しく出ているらしいので、いつか見てみたい。

年齢	性別	職業	意見・感想	興味を持った資料	今後の特別展のテーマ
23	女	学生	ユダヤ教の特徴を見ることができた点が良かったです。	指輪です。	
—	男	本学教職員	ユダヤ教について知らなかったこと・理解不足だったことなどがわかってよかった。とにかく来館してよかった。一回はじっくり観たいと思っていたのですが、満足しました。	ユダヤ教の結婚誓約書、年代が明記されていなかったのは不明だからでしょうが、絵柄の違いが興味深かった。	
43	男	勤労者	展示が美しく配置されていて居心地が良かったです。		
46	女	その他	ユダヤ教はあまり触れる機会がないのでこの展示に興味をもったがユダヤ教とキリスト教の違いはあまり分からなかった。		
47	女	本学学生	なかなか見る機会、接する機会のないユダヤ教に関して知ることができた。	トーラー	
32	女	勤労者	展示物も見やすい。無料なので嬉しかった。受付の方も感じが良かったです。土曜日開いているのが助かります。		キリスト教関係のものであればなんでも。
59	女	その他		スパイスタワー、ランプ、スピボン、ヤド、ネル・タミード	
85	女	その他		トーラー、スパイスタワー、ヤド、まだたくさんあります。	キリストに関しては無知です。希望はありません。
—	女	勤労者	寄付によるトーラーや胸当て、ヤドが見れたことに感動しました。		ユダヤの生活だったので、次はキリスト時代をぜひ。
60	男	その他	トーラーを見れた。入場無料に感謝します。		
22	女	本学学生	ユダヤの通過儀礼について深く知ることができ、来館してよかったと思いました。	トーラー、トーラーカーテン、メノラー	隠れキリシタンの展示をまた企画してください。
46	男	勤労者	西洋の歴史の重みを感じることができた。	トーラーケース、冠	
—	男	その他	旧約・新約の歴史が豊かな展示物(特に旧約)と共に紹介されていたこと。聖書をはじめさまざまな写本もとてもすばらしかった。		
50	女	自営業	全く知らなかったユダヤの道具が見れて良かったです。		マリア絵画をお願いします。

※—は無回答を示している。

来館団体一覧

期日	見学時間	団体名	人数
4月2日(木)	12:45~13:15	新任教職員見学	35名
4月3日(金)	10:00~12:00	神学部 始業礼拝・開講講演会	80名
4月6日(月)	9:00~10:30	「西南学院史」講義	135名
	10:30~12:00	神学部チャペル	65名
4月8日(水)	15:15~16:15	よかこバスツアー	14名
4月9日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
4月10日(金)	8:15~14:15	西南学院中学校新入生 オリエンテーション	198名
4月13日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	25名
4月15日(水)	9:00~10:00	人間科学部古田雅憲教授 「教職総合演習」講義	11名
4月16日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
4月17日(金)	-	国際文化学部邊土名朝邦 教授「基礎演習」講義	16名
	9:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	13名
	16:00~16:15	西南学院大学63期卒業生 見学	20名
4月20日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	45名
4月22日(水)	9:00~12:40	「キリスト教学」 (安高啓明学芸員講義)	131名
	12:30~14:30	事務局新任職員研修	6名
4月23日(木)	-	「キリスト教学」 (安高啓明学芸員講義)	46名
	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	7名
4月24日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
4月27日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	35名
5月7日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
5月8日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	11名
5月11日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	35名
5月12日(火)	-	神学部小林洋一ゼミ	6名
5月14日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
5月16日(土)	10:30~11:30	九州中国学会	2名
5月18日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
5月21日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
5月25日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
5月29日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	14名
6月1日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
6月4日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
6月5日(金)	-	西新小学校	60名
6月8日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	45名
6月11日(木)	15:00~16:00	筑前高校	105名
6月12日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	17名
6月15日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	35名
6月19日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	17名
	-	九州大学宮崎克則ゼミ	30名
6月21日(日)	13:00~19:00	福岡バツハコレギウム	304名
6月22日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	50名
6月23日(火)	-	須恵高校	30名
6月25日(木)	14:30~15:00	武岡大高校PTA	36名
6月26日(金)	14:30~15:00	中間高校PTA	38名
	-	八幡南高校PTA	30名
6月27日(土)	8:30~12:30	キリスト教保育連盟 九州部会保育者研修会	300名
	14:00~16:30	公開講演会	139名
6月29日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
	12:45~13:45	京都大学日本史研究会	40名

期日	見学時間	団体名	人数
6月29日(月)	14:00~15:00	糸島高校PTA	40名
7月1日(水)	-	経済学部伊佐勝秀教授 「演習」講義	25名
	-	経済学部石塚史樹教授 「基礎演習」講義	20名
7月2日(木)	10:45~11:15	福岡魁誠高校PTA	27名
	13:00~14:00	早良中学校	6名
	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
7月3日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
	-	武蔵台高校	70名
7月5日(日)	11:00~21:00	ダイアログ・ネット・ チャリティーコンサート 2009	350名
	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
7月6日(月)	-	玄界高校	114名
	9:00~10:30	国際文化学部後藤新治教 授「美術史」講義	79名
7月8日(水)	11:00~12:30	国際文化学部後藤新治教 授「表象文化論」講義	77名
	9:00~10:30	人間科学部古田雅憲教授 「演習」講義	14名
7月9日(木)	-	国際文化学部高倉教授 「博物館概論」講義	33名
	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	8名
	-	国際文化学部山田順教授 「専門演習」講義	19名
7月10日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
	-	国際文化学部後藤新治教 授「基礎演習」講義	17名
7月13日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	35名
7月15日(水)	-	人間科学部古田雅憲教授 「教職総合演習」講義	22名
7月16日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
7月17日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
	-	国際文化学部片山隆裕教 授「演習」講義	16名
7月21日(火)	10:30~11:30	九州バプテスト教会 教会音楽研修会	15名
	-	オルガン藤吉	8名
	-	野方キリスト教会	10名
7月23日(木)	12:00~12:30	福岡女子高校	42名
	13:30~14:30	西南女学院中学校・高校	25名
7月24日(金)	13:30~14:15	常盤高校	45名
7月29日(水)	-	宮崎南高校PTA	10名
8月3日(月)	11:00~11:45	小倉高校	32名
8月4日(火)	-	人間科学部米谷光弘ゼミ	10名
8月5日(水)	10:30~11:15	鞍手高校	40名
	-	宮崎南高校	15名
8月6日(木)	14:45~15:15	長崎海星高校	17名
	-	駒場東邦中高歴史部	15名
	-	城南デイサービス	13名
8月8日(土)	-	長崎大学	14名
	13:30~14:00	長崎南山高校	40名
8月8日(土)	13:00~15:00	大分県森高校	22名
	12:00~13:00	宇美商業高校	3名
8月29日(土)	9:00~17:00	RKBラジオ 「おはなしライブ」	481名
9月3日(木)	9:30~10:00	私大連関係者	5名
9月4日(金)	-	福岡魁誠高校	60名

期 日	見学時間	団 体 名	人 数
9月16日(水)	-	神崎高校	9名
9月17日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	5名
9月18日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
9月21日(月)	-	鹿児島高校英教科1年生	14名
9月24日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
9月25日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	12名
9月28日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
	-	向陽橘香高校	10名
	16:00~16:30	筑紫高校PTA	89名
10月1日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
	-	西鉄ニュース	3名
	14:45~15:45	嘉穂東高校	40名
10月2日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	11名
10月5日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
10月7日(水)	-	鎮西学院高校	31名
10月8日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	6名
	-	光陽高校	40名
10月9日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	11名
10月12日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
10月13日(火)	-	島原高校PTA	20名
10月15日(木)	-	伊万里高校PTA	40名
10月16日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	11名
	-	西日本新聞社	2名
10月18日(日)	-	商学部古林輝久ゼミ OB会見学	73名
10月19日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	40名
10月21日(水)	10:45~11:45	福島高校	50名
	-	多久高校PTA	15名
10月22日(木)	13:30~15:00	神学部「教会音楽」	4名
10月23日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	10名
	11:45~12:15	下関中等教育学校PTA	23名
	18:00~20:30	西南学院高等学校同窓会 輝西会	120名
10月26日(月)	10:30~12:30	神学部チャペル	45名
10月28日(水)	11:30~12:00	経済学部横溝軌一ゼミ 55期OB見学	13名
	14:15~14:45	門司大翔高校	19名
10月30日(金)	11:00~11:30	龍谷高校	25名
10月31日(土)	11:00~11:30	国際文化交流会	23名
11月2日(月)	10:30~14:30	神学部 ミッションデー	50名
11月4日(水)	10:30~11:30	人間科学部古田雅憲教授 「演習」講義	29名
	-	八幡南高校	83名
11月6日(金)	-	神学部「教会音楽研究」	11名
11月7日(土)	10:00~15:30	結婚式	60名
	15:30~18:00	M.R.B(中世・ルネサ ンス・初期バロック) 音楽実行委員会	6名
11月10日(火)	11:30~12:00	十日会	16名
11月11日(水)	9:00~12:40	国際文化学部今井尚生教 授「キリスト教学」講義	109名
	-	十一会	31名
11月17日(火)	10:30~11:00	韓国光州大学校	6名
11月18日(水)	-	九州大学国際交流会	9名
	-	武雄高校PTA	24名
11月23日(祝)	11:00~12:00	神学部合唱練習	6名
11月27日(金)	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	7名
	-	九州地区私立大学 環境集会	20名

期 日	見学時間	団 体 名	人 数
11月27日(金)	-	西南学院理事会	4名
	19:00~21:00	コンヴィヴィオ・ムジカレ コンサート	70名
11月28日(土)	10:00~18:00	九州考古学会	170名
	13:30~14:30	神学部小林洋一教授講義	10名
12月1日(火)	10:30~11:00	朝倉東高校1年生A	70名
	11:15~11:45	朝倉東高校2年生	40名
	13:00~13:30	朝倉東高校1年生B	80名
12月5日(土)	14:00~16:30	大学院GP公開講座	22名
12月10日(金)	-	糸島高校2年生	90名
12月12日(土)	10:00~15:00	(株)キャンパスサポート 西南	130名
12月13日(日)	13:00~18:00	古楽器演奏会	72名
12月18日(金)	10:40~12:10	国際文化学部後藤新治教 授「基礎演習」講義	16名
	10:30~12:15	神学部「教会音楽研究」	8名
12月19日(土)	18:00~21:00	バツハコレギウム演奏会 練習	40名
	10:00~16:30	聖書研究会講演会	75名
	18:00~21:00	バツハコレギウム演奏会 練習	40名
1月7日(木)	-	CCC (韓国)	18名
1月9日(土)	13:30~16:00	GP公開講座	48名
1月18日(月)	11:00~12:00	神学部チャペル	40名
1月21日(木)	-	CCC (韓国)	8名
1月22日(金)	-	インマヌエルウルサン教会 (韓国)	6名
	13:00~16:30	三大学博物館シンポジウム	40名
1月23日(土)	13:00~16:30	大学院GP公開講座	32名
1月27日(水)	11:00	スピリット取材	5名
2月4日(木)	14:30~16:30	福岡県教育委員会	2名
2月13日(土)	14:00~16:00	大学院GP公開講座	25名
2月18日(金)	-	SFC(韓国)	11名
2月22日(月)	-	釜山教会(韓国)	15名
2月27日(土)	14:00~16:00	大学院GP公開講座	22名
3月2日(火)	-	南山大学人類文化博物館 関係者	6名
	-	36会	35名
3月6日(土)	-	RKB取材	6名
3月13日(土)	14:00~16:00	大学院GP公開講座	31名
3月15日(月)	14:30~15:30	久留米商業高校	120名
3月18日(木)	13:30~15:00	神学部卒業礼拝	90名
	14:30~15:30	久留米商業高校	120名
3月21日(日)	12:30~17:30	MI・らん・NE リハーサル	8名
3月22日 (月・祝)	9:30~17:00	MI・らん・NE コンサート	62名
3月27日(土)	13:00~14:00	長住バプテスタ教会	16名
3月30日(火)	14:40~15:10	早良区バスツアー	18名

4. 広報活動

雑誌・新聞・テレビ協力

- ・特別展「信仰とその証—島原・天草の乱と天草四郎」紹介

『西日本新聞』朝刊（2009年6月22日）

『毎日新聞』朝刊（2009年6月26日）

『キリスト教新聞』（2009年7月11日）

- ・特別展「ジュダイカ・コレクションⅡ 祈りの継承 ユダヤの生活と儀礼」

『Christian Today』（2009年10月2日）

『Spirit』No.171（西南学院大学 広報・連携課、2009年12月10日）

- ・大学博物館紹介

『さわら』（早良区地域振興課編、2009年10月15日）

『にしてつニュース』No.67（Nishitetsu、2009年12月）

『遊人一U-J I N』VOL.55（ウイルプランニング、2010年1月15日）

『今日感テレビ』（特集：穴場ウォーカー～福岡市早良区西新境界～）、(RKB、2010年3月12日放映)

- ・講演会情報

「よみうりかわらばん」（読売新聞西部本社、2009年11月14日）

- ・資料画像提供

「キリシタン魔鏡」（『週刊世界百不思議』No.48、講談社、2010年3月11日）



2009.6.22(月) 西日本新聞



2009.6.26(金) 毎日新聞

寄贈図書一覽

2009年度

著者・編者	書名	発行	発行年	資料区分	寄贈元
紺谷 亨・山本 惠理 森脇彰子編集	N.D.S.U. Collection vol.1	ノートルダム清心女子 大学学芸員課程	2008年	小冊子	—
長崎歴史文化博物館	長崎歴史文化博物館 Nagasaki Museum of History and Culture	長崎歴史文化博物館	2005年	図録	安高啓明
長崎歴史文化博物館	開館一周年記念展 「くち 三七二展—大蔵の 神宝と祭礼」	長崎歴史文化博物館	2006年	図録	安高啓明
長崎歴史文化博物館	勝舟と幕末長崎	長崎歴史文化博物館	2007年	図録	安高啓明
長崎歴史文化博物館	列福式関連地区別企画 「バチカンの名宝とキリシ タン文化」	長崎歴史文化博物館	2008年	図録	安高啓明
長崎歴史文化博物館	一ローマ・長崎 信仰の証— 日蘭修好150周年記念 特別展「屏風 一将軍からの贈り物—」	長崎歴史文化博物館	2008年	図録	安高啓明
長崎歴史文化博物館	江戸のタイムカプセル —日蘭のコレクションに見る 近世長崎—	長崎歴史文化博物館	2008年	図録	安高啓明
越中西也	長崎初期キリシタンの 一考察	長崎純心大学博物館	2009年	書籍	長崎純心大学博物館
	長崎学研究	長崎純心大学博物館 内長崎学研究	2009年	叢報	長崎純心大学博物館
関西学院大学博物館 開設準備室編	復元 江戸時代のきもの いまとわがしの職人技	関西学院大学博物館 開設準備室	2009年	図録	関西学院大学博物館 開設準備室
九州国立博物館編	東風西声 第4号	九州国立博物館	2009年	紀要	九州国立博物館
曾布川博・基信祐朗 監修	聖地チベント—ポタラ宮と天 空の至宝—	九州国立博物館	2009年	図録	九州国立博物館
東京国立博物館・ 九州国立博物館・ 法相宗大本山興福 寺朝日新聞社編集	興福寺創建1300年記念 国宝阿修羅展	朝日新聞社	2009年	図録	九州国立博物館
九州国立博物館編	九州国立博物館開館4周年 記念特別展 「古代九州の国宝」	九州国立博物館	2009年	図録	九州国立博物館
	九州産業大学美術工芸 卒業 終了秀作展 vol.1 先駆 たちのちきせき '08-'02	九州産業大学美術館	2009年	図録	九州産業大学美術館
国立 歴史民俗博物館編	れきはくはいこうよ 2007 国立歴史民俗博物館 教 育関連活動報告	国立歴史民俗博物館	2009年	図録	国立歴史民俗博物館
	復古館報 第18号	財団法人 鍋島敬效会	2009年	活動 報告書	財団法人 鍋島敬效会
	島津奇形—大海原に夢を抱 いた殿様—	尚古集成館	2009年	図録	尚古集成館
玉川大学教育博物館	玉川大学教育博物館編 「博物館ニュースSHU」 No.33	玉川大学教育博物館	2009年	小冊子	玉川大学教育博物館
玉川大学教育博物館	「玉川大学教育博物館 館報」第7号 2008年度	玉川大学教育博物館	2009年	報告書	玉川大学教育博物館
	東京大学史料編纂所付属 画像史料解析センター—通信 第5号	東京大学史料編纂所	2009年	報告書	東京大学史料編纂所
	東京大学史料編纂所付属 画像史料解析センター—通信 第4号	東京大学史料編纂所	2009年	報告書	東京大学史料編纂所
	東京大学史料編纂所付属 画像史料解析センター—通信 第4号	東京大学史料編纂所	2010年	報告書	東京大学史料編纂所
	純心 博物館だより	長崎純心大学博物館	2009年	小冊子	長崎純心大学博物館
	島の館だより	平戸市生月町 博物館・島の館	2009年	—	平戸市生月町 博物館・島の館
—	思文閣古書資料目録 第二百一十二号	思文閣出版 古書部	2009年	目録	思文閣出版
—	思文閣古書資料目録 第二百一十四号 善本特集 第二十一輯	思文閣出版	2009年	目録	思文閣出版
関西学院大学博物館 開設準備室	原野コレクションII「EX LIBRIS」(蔵書)—夢路から 現代作家まで—	関西学院大学博物館 開設準備室	2009年	図録	関西学院大学博物館 開設準備室
東京大学史料編纂所 附属画像資料 解析センター	東京大学史料編纂所附属 画像資料解析センター—通信	東京大学史料編纂所	2009年	報告書	東京大学史料編纂所
関西大学博物館	肝腹 NO.59	関西大学博物館	2009年	報告書	関西大学博物館
Ohtsu Tadahiko, Jebrael Nokandeh, Yamauchi Kazuya	Preliminary Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan,First Season,2001	Iranian Culture Heritage Organization, Teheran Middle Eastern Culture Center in Japan, Tokyo	2003年	報告書	大津忠彦
Ohtsu Tadahiko, Jebrael Nokandeh, Yamauchi Kazuya	Preliminary Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan,Second Season 2002	Iranian Culture Heritage Organization, Teheran Middle Eastern Culture Center in Japan, Tokyo	2004年	報告書	大津忠彦
Ohtsu Tadahiko, Jebrael Nokandeh, Yamauchi Kazuya	Preliminary Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan,Third Season	Iranian Culture Heritage Organization, Teheran Middle Eastern Culture Center in Japan, Tokyo	2004年	報告書	大津忠彦
Ohtsu Tadahiko, Jebrael Nokandeh, Yamauchi Kazuya	Preliminary Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan,Fourth Season	Iranian Culture Heritage Organization, Teheran Middle Eastern Culture Center in Japan, Tokyo	2005年	報告書	大津忠彦
Ohtsu Tadahiko, Jebrael Nokandeh, Yamauchi Kazuya	Preliminary Report of the Iran Japan Joint Archaeological Expedition to Gilan,Fifth Season	Iranian Culture Heritage Organization, Teheran Middle Eastern Culture Center in Japan, Tokyo	2006年	報告書	大津忠彦
東山實四郎	神崎郡誌	神崎郡教育会	1915年	書籍	山中耕作
渡邊重春著	豊前志	二豊文獻刊行会	1931年	書籍	山中耕作
井上頼壽	京都民俗志	西濃印刷株式会社	1933年	書籍	山中耕作
長瀬定一	斐伊川史	出雲郡士誌刊行会	1950年	書籍	山中耕作
友石孝之	村上佛山	青巧社	1955年	書籍	山中耕作
宗像神社復興期成会	宗像神社史	宗像神社復興期成会	1961年	書籍	山中耕作
北崎村々誌 編纂委員会編	福岡県糸島郡北崎村 「北崎村誌」	北崎村役場	1961年	書籍	山中耕作
佐々木古代文化研究 室/代表 佐々木謙	馬山古墳群 鳥取県東伯郡 羽合町橋津馬山古墳群	稲葉書房	1962年	報告書	山中耕作

著者・編者	書名	発行	発行年	資料区分	寄贈元
小林剛	俊東房重源史料集成	吉川弘文館	1965年	書籍	山中耕作
下関市史編修委員会	下関市史 原始—中世	下関市役所	1965年	書籍	山中耕作
宗像大社社務本局編	宗像大社社務本局	宗像大社社務本局	1965年	書籍	山中耕作
出水郷土誌 編修委員会	出水の歴史と物語	出水郷土誌 編修委員会	1967年	書籍	山中耕作
直木孝次郎	日本古代兵制史の研究	吉川弘文館	1968年	書籍	山中耕作
大神神社 史料編纂委員会編	「大神神社史料」 第一巻 史料編	大神神社 史料編纂委員会	1968年	書籍	山中耕作
大神神社 史料編纂委員会編	「大神神社史料」 第三巻 研究論説編	大神神社 史料編纂委員会	1971年	書籍	山中耕作
江川地区 民俗資料緊急調査 委員会編	福岡県甘木市江川地区 民俗資料緊急調査報告書	福岡県甘木市 教育委員会	1969年	報告書	山中耕作
新井恒易著	「中世芸能の研究」	伊集院俊隆	1970年	書籍	山中耕作
池内宏著	日本上代史の一研究	中央公論美術出版	1970年	書籍	山中耕作
大塚順心・渡辺信幸	国東文化と石仏	木耳社	1970年	書籍	山中耕作
瀧川政次郎・村田正 志・佐藤虎雄	熊野速玉大社古文書速記録	日新印刷株式会社	1971年	書籍	山中耕作
校訂 永島福太郎・ 小田基彦	熊野那智大社社父書 第一巻 米良文書一	統括書類従完成会	1971年	書籍	山中耕作
校訂 永島福太郎・ 小田基彦	熊野那智大社社父書 第二巻 米良文書一	統括書類従完成会	1972年	書籍	山中耕作
校訂 永島福太郎・ 小田基彦	熊野那智大社社父書 第三巻 米良文書三	統括書類従完成会	1974年	書籍	山中耕作
校訂 永島福太郎・ 小田基彦	熊野那智大社社父書 第四巻 米良文書四 湖崎穂成文書	統括書類従完成会	1976年	書籍	山中耕作
芥川龍男	戦国史叢書9—豊後大友氏	中央精版印刷 株式会社	1972年	書籍	山中耕作
永末政雄編	シンポジウム 高松塚壁画古墳	創元社	1972年	書籍	山中耕作
坂本太郎博士 古希記念会	続日本古代史論集 上巻	吉川弘文館	1972年	書籍	山中耕作
坂本太郎博士 古希記念会	続日本古代史論集 中巻	吉川弘文館	1972年	書籍	山中耕作
坂本太郎博士 古希記念会	続日本古代史論集 下巻	吉川弘文館	1972年	書籍	山中耕作
城田吉六著	豆飯—伝承と習俗—	対馬郷土研究会	1973年	書籍	山中耕作
多賀宗一著	玉葉 索引	吉川弘文館	1974年	書籍	山中耕作
市場直太郎	筑紫路の給馬	西日本文化協会	1974年	書籍	山中耕作
新井恒易著	「続中世芸能の研究」 田楽 を中心として	伊集院俊隆	1974年	書籍	山中耕作
中野博能	古代国東文化の謎—宇佐神 道と国東仏教—	新人物往来社	1974年	書籍	山中耕作
寺内ダム民俗資料 緊急調査委員会編	「矢の竹」 寺内ダム 民俗資料緊急報告書	福岡県甘木市 教育委員会	1974年	報告書	山中耕作
井上精工	博多風俗史 芸能編	横文館書店	1975年	書籍	山中耕作
永留久忠著	古代史の鍵 対馬 —日本と朝鮮を結ぶ島—	大和岩雄	1975年	書籍	山中耕作
解説者野田正夫 ／梅原素古賀幸雄	家動記得集	鶴久二郎	1975年	小冊子	山中耕作
梅原治夫	国東半島の歴史と民俗	佐伯印刷株式会社	1975年	書籍	山中耕作
瀬野精一郎	肥前国崎神往史料	吉川弘文館	1975年	書籍	山中耕作
芸林舎	玉葉 上	芸林舎	1975年	書籍	山中耕作
芸林舎	玉葉 中	芸林舎	1975年	書籍	山中耕作
芸林舎	玉葉 下	芸林舎	1975年	書籍	山中耕作
中村治理編	「宗教文化」第32号	筑紫書・宗教文化 談話会	1977年	小冊子	山中耕作
福岡県文化会館編	福岡県古文書等 所在確認調査報告書	福岡県文化会館 図書部内 福岡県地方史 研究連絡協議会	1977年	報告書	山中耕作
江口辰彦著	「佐賀平野の水と土— 成福兵庫の水利事業—」	新研社	1977年	書籍	山中耕作
大藤ゆき	鎌倉の民俗	かまくら春秋社	1977年	書籍	山中耕作
久留米市教育委員会	史跡 高良山神籠石保存 管理計画策定報告書	久留米市教育委員会	1977年	報告書	山中耕作
福岡県教育委員会	九州縦貫自動車道埋蔵文化 財調査報告書XV	福岡県教育委員会	1977年	報告書	山中耕作
芥川龍男・渡辺宏紀	国東半島の民話 (第一集)	文獻出版	1978年	書籍	山中耕作
泉澄一	堺と博多 戦国の豪商	創元社	1978年	書籍	山中耕作
小松勝助著	美津島の民俗 (「美津島町誌抜刷」)	—	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 二<東北編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 三<関東編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 四<中部編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 五<近畿編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 六<中国・四国編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
豊田武・藤岡謙二郎・ 大藤時彦編	「流城をたどる歴史」 六<九州編>	ぎょうせい	1978年	書籍	山中耕作
財団法人元興寺文化 財研究所	増補「英彦山」限定千部 叢書房	叢書房	1978年	書籍	山中耕作
財団法人元興寺文化 財研究所	英彦山・求菩提山(仏教民俗 資料緊急調査報告書)	財団法人元興寺 文化財研究所	1978年	報告書	山中耕作
—	「西郊民俗」第八十三号	西郊民俗談話会	1978年	報告書	山中耕作
小倉郷土会編	「豊前」	国書刊行会	1979年	書籍	山中耕作
福岡県文化会館編	郷土史関係雑誌記事索引 (稿)	福岡県文化会館	1979年	報告書	山中耕作
—	宇美八幡宮 宇美八幡宮誌	宇美八幡宮	1979年	書籍	山中耕作
井上光貞・大野晋・ 岸俊男・直木孝次郎・ 西嶋定生	鉄剣の謎と古代日本	新潮社	1979年	書籍	山中耕作
城戸清種	博多・筑前史料 豊前覚書	阪文社出版	1980年	書籍	山中耕作
佐賀県教育委員会 文化課	佐賀県民俗地誌	新郷土刊行協会	1980年	報告書	山中耕作
山崎朝成	曳山の人形戯	東洋出版株式会社	1981年	書籍	山中耕作
森山邦人(文) 光安欣二(写真)	「志賀島の四季」	九州大学出版会	1981年	書籍	山中耕作
—	「福岡藩 吉田家傳録」 上巻	太宰府天満宮	1981年	書籍	山中耕作
—	「福岡藩 吉田家傳録」 中巻	太宰府天満宮	1981年	書籍	山中耕作
—	「福岡藩 吉田家傳録」 下巻	太宰府天満宮	1981年	書籍	山中耕作
美津島の 自然と文化を守る会	美津島の自然と文化	美津島町役場	1981年	書籍	山中耕作

博物館組織

大学博物館

館長 高倉 洋彰（兼任、国際文化学部教授）
専門：日本考古学、博物館学
主として出土考古資料を通じてみる日本と中国・朝鮮の交流史

学芸員 安高 啓明（専任）
専門：日本近世史、法制史
江戸幕府司法制度と幕府法、禁教の研究

博物館事務室

職員 渡邊 浩之（専任）（2010年4月1日着任）

臨時職員 貞清 世里（本学国際文化研究科博士後期課程）
早瀬 遼子（本学国際文化研究科博士後期課程）
平川 知佳（本学国際文化研究科研究生）
中松 沙織（本学国際文化研究科研究生）
吉村 陽子（本学国際文化研究科研究生）
城島 久美（本学国際文化研究科博士前期課程）
阿比留由佳（本学国際文化研究科博士前期課程）
小林 史奈（本学国際文化研究科博士前期課程）
中尾 祐太（本学国際文化研究科博士前期課程）

（2010年8月現在）

西南学院大学博物館年報 第2号

2009

発行日 2010年8月31日

編集発行 西南学院大学博物館
〒814-8511 福岡市早良区西新6-2-92
TEL(092)823-4785 FAX(092)823-4786

印刷 株式会社インテックス福岡
〒812-0892 福岡市博多区東那珂1-15-1
TEL(092)477-7002 FAX(092)477-7003

 西南学院大学